

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-06-02

和仏法律学校講義録

吾孫子，勝 / 清水，澄 / 松岡，義正 / 掛下，重次郎 / 矢部，廉

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

3-15

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

63

(発行年 / Year)

1903-06-16

○ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 1 2 3

（西元一千九百零六年六月十六日第三種經書印行於上海新華書局）

明治三十六年六月十六日發行

三十六年度 第三學年ノ十五



和佛法律學校講義錄

第百卷

和佛法律學校

第三學年 第十五號目次

民 法 親 族

法律學士 掛 下 重 次 邢

(自三三一至三三七)

商 法 手 形

法律士 矢 部 麟

(自二一七至二二三)

破 產

法 學 士 松 岡 義 正

(自二二三至二二九)

民事訴訟 法

法 學 士 吾 孫 子 勝

自第六編(至二二九)至二三〇

行 政 法

法 學 士 清 水 澄

(自二一九至二二〇)

雜 報

○外國人ト其有セル船舶ノ賣却〇二罪ニ對スル一箇ノ例證

090
1903
3-1-15

ナル場合ニ於テ之ヲシテ依然親權ヲ行ハシムルハ子ノ爲メニ不利益ナルコト
論ヲ埃タサルナリ故ニ此ノ如キ場合ニ於テ裁判所ヲシナ子ノ親族又ハ檢事ノ
請求ニ因リテ親權ノ喪失ヲ宣告セシムルハ管ニ子ヲ保護スルノミナラス公益
上亦此ノ如クスル必要アルヲ以テ本節ノ規定ヲ設ケタルナリ
親權喪失ノ宣言(第八九六條)父又ハ母カ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナル
トキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親權ノ喪失ヲ宣告スルコト
ヲ得
親權ノ喪失ハ親權者ノ親權ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナルトキニ限ル而シテ
親權ノ濫用又ハ不行跡トハ頗ル漠然タル事實ニシテ如何ナルモノカ其標準ト
爲ルヘキカハ法律ニ於テ之ヲ定メサレトモ親權ノ濫用トハ親權者カ法律ノ認
メタル範圍ヲ超ニテ其權利ヲ行ヒ又ハ法律カ認メタル範圍内ニ於テモ親權行
使ノ方法其當ヲ得サルヲ謂フ例ヘハ子ヲ懲戒スルニ當リ嚴打シテ創傷ヲ爲ス
カ如キ又ハ監護教育ノ方法其當ヲ失シ又ハ財產ノ管理其當ヲ得ナルカ如キ場
合是ナリ又著シキ不行跡トハ例ヘハ飲酒好色其度ヲ失シテ家事ヲ顧ミサルカ

090
1903
3-1-15

オル場合ニ於テ之ヲシテ依然親権ヲ行ヘン事ハ子官爲ミニ不利益ナル事ト
論テ教タサルナリ故此ノ如き場合ニ於テ裁判所は實證子の保護スル事ミサラス公室
請求ノ因ヲ親権ノ喪失ヲ宣告セシムハ於テ被子の保護スル事ミサラス公室
上亦此ノ如きノ必要アル事以テ本節又規定タ被子の保護ニ及バ無
親権喪失ノ宣言(第九九六條)父又ハ母の親権ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナル
キハ裁判所が子ノ親権又ハ檢事ノ請求ニ因リ其親権ノ喪失ヲ宣告スルコト
ヲ得也然レバハイチハ裁判所ハ子ノ親権又ハ檢事ハ権利ニ因リ其聲點へ
親権ノ喪失ハ親権者又ハ親権ヲ濫用シ又ハ著シク不行跡ナリ者無限而莎ナ
親権ノ濫用又ハ不行跡ヨハ頗ル漠然タル事實ニシテ如何ナルモノカ其標準ト
爲ルキ物ハ法律未於テ之等定義ナリ者親権ヲ濫用シハ親権者之法律之認
定タガ範囲ヲ超テ其權利ヲ行使又ハ法律ヲ認定シ範囲内ニ於テモ親権行
使之方針其當ヲ得オル又謂之例ヘナシ者親戚或族ノヒ當以親打拂ア制衡ヲ爲ル
者御キ又ハ監護教育ノ方法其當又失之又ハ財産又管理其當得失アシ如之揚
合是ナリ又著シキ不行跡未ヘ例貰ハ飲酒好色溝皮ノ失シ或家事ア關係ナシカ

如キヲ謂フモノニシテ其等ノ事實ハ他ヲ裁判所以認定、依ガコトヨリ爲セリ。親権ノ喪失ヲ請求スルコトヲ得ル者ハ子ノ親族又は被監護事由限無子ハ自ら之論請求ヲ爲スコトヲ得ス法律カ子ニ此請求權不與グナガ所居地他オモ子トカラ親ヲ訴フルハ名分ノ上ニ於ラ許スヘカラシルヲ以ラナリ。但ニ試ム。縣別此請求ニ關スル裁判所ノ管轄ハ親権者カ若通裁判籍又有スル地方裁判所ナリ(人事訴訟手續法第三一條)。當然ニシテ事實ニシテ成敗付く事無事。財產管理權ノ喪失(第八九七條)。親権ヲ行フ父又ハ母が管理權ヲ失當并因リ其子ノ財產ヲ危クシタルキハ裁判所ハ子ノ親族又ハ檢事ノ請求ニ因リ其管理ノ喪失ヲ宣告スルコトヲ得又ハ財產ノ財本ニ因リ其縣財・契約ニ違背スルハコトアリ前項ノ宣告ヲ受ケタルトキハ管理權不棄ニ在ル母之ヲ行フ。本旨猶大也。此規定ハ夫婦ノ財產關係ニ付キ規定也ラレタル第七百九十六條第二項ト其趣旨ヲ同シウスルキノニシテ親權ノ濫用カ其全部ニ亘ラヌシテ單ニ財產ニ關スル親權ノ行使方法ヲ誤リタル場合オリ猶ヘシ子ノ教育監護等ニ關スル親權行使ノ方法ハ宣キヲ得ルト雖モ親権者カ子ノ財產ヲ費消シ又ハ子ノ財產ヲ以ク

危險ナル商業ヲ營ミタルカ如キ場合ニ於ケヤ必ス次モ親権全部ヲ喪失セシムヘキ必要ナク唯財產ノ管理權ヲ奪ヘ以其弊ヲ防クニ足ル故ニ法律ハ此ノ如キ場合ニ於テ親権者ノ財產ノ管理權ノミダ喪失セシムルコトハ爲セリ。又此場合ニ於テモ管理權ノ喪失ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル者ハ親權喪失ノ請求ト場合ト同シク子ノ親族又ハ檢事ニ限リ(人事訴訟手續法第三一条)。又ヒ父カ親権者ナル場合ニ於テ親權ヲ喪失シタルトキ母ガアルトキ又母之ヲ行フハ當然ナリ母ナキトキ又ハ母カ之ヲ辭シタルトキ若タバ母カ之ヲ行フ能シテアルトキハ後見人カ子ノ財產ノ管理ヲ爲スモレント(第九〇〇條第一號)。又ヒ失權宣告ノ取消(第八九八條)。前二條ニ定メタル原因カ止ムタル事例ハ裁判所ニ本人又ハ其親族ノ請求ニ因リ失權ノ宣告ヲ取消スコトヲ得。法律カ親權全部ノ喪失又ハ財產管理權ノミダ喪失ヲ宣告セシムハ規定ヲ設ケタルハ已ムヲ得タルニ出テタルモノニシテ其原因ニシテ止ムタルトキハ仍ホ武夷失ヲ繼續セシムヘキ理アラサル。但以テ此場合ニ於テ右親權ヲ回復セシムヘキコト當然ナリ而シテ此場合ニ於テバ裁判所ハ奉入又ハ其親族ノ請求ニ因

父夫權を宣傳又取消ニシテ財産ノ權ノト爲權利人專訴設手續流傳三轍傳ニ因
夫權を宣傳取消シテ既トキニ後見終了ノ結果失權又宣傳所受列傳者本
父夫之其權利カ母ニ移ヌ之場合ニ於テ父が再ヒ之ヲ行フセムリニハ日本
母夫財產管理權ハ抛弃第八九九條親權ヲ行次母之財產又財產又財產又
父母(舊民法人妻権第一五七條第二項)、宣傳也別當ナシイモ但

親權言義ニ説カ久々如其權利タルト同時立親權又父或立親權者ニ之又前
スルコト又得タルヲ原則制不然シトモ女子自然ノ性質上我邦實際ノ體態トニ
依リ婦人母ハ往往財產ノ管理ニ適當カラサル者タルヲ親父母ニ限リ財產又管理
理ヲ許スルコトニ許セラ若然在ノ時許ナシシ又強ヒ若母又シテ子又財產又管理
キ各ム則口トニ爲諸事又ハ却子子又爲スヰ不利益制爲然ニキ則以ナナリ
法律カ許シタル此拋棄ハ單ニ財產又管理ニ限ルセ者又終ニ財產又管理セシ母子
又身上無係ニ事ニ付ク然母ハ父上同シタ其親權ヲ行ハシムカ矣エ而シヲ法
律カ母ニ財產又管理權以外希親權ノ抛弃權許ナシル但他在シ子又身體又保護
又財又親長モ之ニ適シ之ヲ他人妻翁シ外親カ屬ミテガ御制ニ子又財產ニ反ス

ルコト大ナル因甚才ヲ不法律ニ母又以獨子ノ身並西保護不爲ス無不適當承認
え家がヲ以テ才をあつて且其外是是也又財產又管理又人妻女又母又親父又母又親
母夫又人財產又管理又解シタルト無不第九百條又規定ニ依リ後見人又置タル
ノニ又母ハ子ノ身上又保護ヲ爲シ後見人母其財產又管理ニシテ母トス第九
三五條無事ヘ無事ニキシテ計大マ親團イヌトニ其無事又持ナ否ナシモ取向ニ
セリ(第300小判後止一六判第武國六治)

第六章 後見

大財團又大業者又大業者又大業者又大業者又大業者又大業者又大業者又大業者
後見トニ親權又脫タル未成年者及ニ扶助者者又身體及ニ財產又保護監督不
ニキ職務ナリ凡シ秩序整然タル社會無在リテ自ラ己身身體及ニ財產又保護
スル能力ナキ者ヲ保護セス之ノ顧ニシテ可ナルモニ非里未成年者及ニ扶
助者者又如キハ自ラ其身體及ニ財產又保護又爲スコト能ハナル者加林ニ法律
上之ヲ保護スル機關又監督者又大業者又大業者又大業者又大業者又大業者又大業者
又保護又別機關亦外ナオナシ大業者又未成年者又扶助者此後見ニ依リ保護
ア受タルモ非久前ニ説キタルカ如ク其家半父又義母又成トキノ其親權ニ服シ

ヲ保護ヲ受ダ後見ヲ受クル事ニ未成年者又後見ヲ依リケ保護ヲ受クノ所ハ其家ニ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權者カ管理權又有權力或能於此ニ限ルナリ後見ハ未成年者及ニ禁治產者保護ノ爲メ公達上既定セヌ然後ル相人職務大セトモ之ヲ以テ直チニ公ノ職務ト謂フコトヲ得タルナリ何トナレバ國家ハ之ヲ規定ヲ設ケタレトモ自ラ其事務ニ干涉セナルモノニシテ後見未滿開外私ノ機關ニ屬シ國家ノ機關ニ非ツレハ大ア然レトモ後見え機關未滿後見人後見監督人又ハ親族會員ト爲ルノ義務ハ國家ニ對スル公法上之義務タルナリ既此等ノ機關ニ選定セラレタル者ハ正當ノ事由ナキトキハ之ヲ辭スルコトヲ得ナルナリ(第九〇七條、第九一六條第九四六條)

後見ノ職務ハ無信ニテ之ヲ行フヲ原則トス故ニ其職務ヲ執ル者ニシテ如何ニ長キ問如何ニ煩雜ナル事務ヲ執ルトモ之カ報酬ヲ請求オルコトヲ得ナルナリ唯後見人ニ對シテハ被後見人ノ財產中ヨリ相當ノ報酬ヲ與フルヨトアリトモ其場合モ甚タ制限セラレ且是レ後見人ノ權利ニハ非ナルナリ(第九二五條)本章ヲ分チテ四節ヲス第一節ヲ後見ノ開始トシ如何斯處場合ニ後見ハ開始セ

ラルナリヲ規定シ第二節ヲ後見ノ機關トシ如何オル機關ヲ以テ後見ヲ行ムヘキヤナリ規定シ第三節ヲ後見ノ事務トシ後見人ノ職務、權限及主責任等ヲ明カニシテ第四節ヲ後見ノ終了ヨシ其義務カ終了シタル場合ニ於ケル後見人ノ權利義務ヲ規定シタリ至其間故アリシモ又ハ過度ノ權人自承ト子細ニ付カ堵ナセ
諸々セリ
第一節 後見ノ開始 てハヨヒス又解説を詳く詳く詮解解説
後見開始ノ場合第九〇〇條「後見ハ左ノ場合ニ於テ開始ス」
モ一、被後見人成年者ニ對シテ親權ヲ行フ者ナキトキ又ハ親權ヲ行フ者カ管理權又
有キタルト外並マ受カシムイニ同様ニ附スル者也又ハ其ニ賤財ヲ有ヘリ
二、禁治產ノ宣告アリタルトキ(第八條、舊民法人專編第六一條、第三二十四條
當二第十項)參看ノ如是

後見ノ付セラル者ハ未成年者及ニ禁治產者ニ限ルモノニシテ其他ニ於テハ
如何方ガ場合ト於テ後見ニ付セラルノ事例ニ在タルカリ例ヘハ成年
者ニ付セラル者其者財產ノ保護ヲ爲め治產能ハサルトキ小若シ其者カ尊禁治

産者(心神耗弱者、聾啞者、盲者、更に浪費者)に対する者ナルト皆ふ第十二節第十九條規定は從事法律上特別の保護ヲ受シレント此場合ニ非保佐人ヲ附エ時セノ事也
テ後見は、非ナルカ、未熟半禁制又は禁治產者ニ限リ、かくニして其處に就てハ
第一種、未成年者ノ後見

第二種、親権の性質と付キ説キタルカ如ク未成年者ノ親権ヲ受取ル
後見体依リテモ保護ヲ受クレトモ同時ニ兩者ノ保護ヲ受クルニ非ス未成年ノ
子カ其家外於父又ハ母ノ有スルも亦モ親権ニ就リテ又モ保護ヲ受ク若其萬
父及ヒ母カ知シナカルトキ死亡シ妻ル主キ父及ヒ母カ最初ヨリ子ノ家ニ在ラサ
ルトキ、其家ヲ去リタルトキ其他父及ヒ母カ家ニ在ルトモ共ニ親権ヲ行フコト
能ハサルトギニ於テノモ後見ノ開始アルモノトス又親権ヲ行フ者カ管理權ヲ
有セサルトキニ於テモ其開始アルモノトス體ニ第八百九十七條ニ付キ説キタ
ルカ如ク親権ヲ行フ父又ヒ母カ管裡ヲ失當ニ因リテ其子ノ財産ヲ先取ル少財
トキム其管裡尋ヲ喪失シシタルル事キアツク成母ニ序済財產ヲ管理ヲ辭以
コトヲ得ル第九十九條也ヲ述多テ此等少場合也於テ本親権ヲ行方堵カ管裡權

ヲ有セサルヲ以テ他ニ子ノ財産ヲ管理スル者大ニ之常也カヌ、是ヲ以テ本
ノ保護ヲ爲オニ後見開始アルトト爲シタリ但此節ニ在場合ニ於テハ後見
事務ハ制限セラレ未成年者ノ財産ニ關スル權限固末有矣其未成年者ノ身
上ニ關子ガ事ニ付キテ之權限ヲ有セオル者、第九三五條(註)此後見如
ク親権ヲ行フ父又ヒ母カ未成年子ノ財產ヲ管理權ヲ喪失シテ其身上
某個スル保護ヲ依然親権者ニ於テ爲スベ善セ云爾(註)此後見ノ事務關ニシテ之ヲ
第一種、胎、產者ノ後見(註)子ガ出生ノ時より生後一年内ノ間也(註)此後見ノ事務
心神喪失ノ常況ニ在ル者カ禁治產者タル甚至第七條ノ規定並依テ入裁判所人
宣告ヲ受ク而シテ此宣告ヲ受クタル者ハ第八條ニ依リテ後見ニ付セラルルモ
ソニシテ其之ニ付セラルル時期(註)禁治產者ノ宣告アリタル時ト不面シテ禁治產
ヲ宣告シタル決定之人事訴訟手續法第五十二條ニ依テ禁治產者ノ法定代理人人
又テ法律ニ依リ後見人ト爲シ人夫者カ其滅失又毀ケタリ日月リ其能力又生シ
又法定代理人人又ハ法律ニ依リ後見人ト爲ルヘキ者ナキ場合ニ於テハ檢事カ送
達ヲ受クタル日ヨリ其效力ヲ生スルモノトス

第二節 後見ノ機関

後見ノ機関ハ四アリ第一後見人第二後見督監人第三親族會第四裁判所是ナリ其親族會ハ後見ノ爲メノミニ設クラレタルニ非スシジタ其他後見ノ事務ニ属セナル多クノ事務ヲモ掌ルア以テ之ヲ後見ノ章中ニ置カスシジタ別ニ一章ヲ設ケ之ヲ規定セリ
(一)後見人ハ後見ノ最セ重ナル機関ニシテ其理事者ナリ(二)後見監督人ハ後見人ノ事務ヲ監督スルモノナレトモ時トシテハ之ニ代ルコトアリ(第九一五條)
三親族會ハ親族其他本人又ハ其家ニ隸故アル者ノ合議體ヨリ成ル機関ニシテ或ハ後見人、後見監督人ヲ選定シ或ハ之ヲ監督シ或ハ之ヲ指揮シ右第一第二ノ機関ヲシテ十分ニ其職務ヲ盡ナシムルコトヲ謀ルモノトス(四)裁判所ハ總テ此等ノ機關ニ對シテ最上ノ監督權ヲ有スルモノニシテ國家ヲ代表シ公益ノ名義ニ依リテ無能力者ヲ保護スル任ニ當ルモノナラ而シテ裁判所ハ裁判所構成法並訟事件手續法等ノ規定アリテ民法中ニ之ヲ規定スルノ必要アラナルナリ故ニ本

節ニ於テハ後見人及ヒ後見監督人ニ機關ノミ外規定シ之ヲ二ニ分テリ
第一款 後見人

遺言ニ依ル未成年者ノ後見人(第九〇一條)未成年者ニ對シテ最後ニ親權ヲ行フ者ハ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得但管理權ヲ有セナル者ハ此限ニ在ラス
親權ヲ行フ父ノ生前ニ於テ母カ豫メ財產ノ管理ヲ辭シタルモキハ父ハ前項ノ規定ニ依リテ後見人ノ指定ヲ爲スコトヲ得舊民法人事編第六四條第十六五條
此規定ハ親權ヲ行フ者カ遺言ヲ以テ未成年者ノ後見人ヲ指定シタル場合ニシテ法律ハ親權ヲ行フ父又ハ母ハ未成年者ノ後見人タルベキ者ヲ指定スル權ヲ有スルコトヲ爲セラ然レド父又ハ母カ一時親權ヲ有セシムトア然モ於テハ之ヲ喪失シタル後ニ於テモ後見人指定ノ權アルモノニ非ス又父及ヒ母共ニ履次親權ヲ行ヒタル場合ニ於テ其順序ノ前後ヲ問ハス就レノ指定シタル後見人

も有效ナガト謂フニ非ス法律ハ繼最後ニ親権ヲ行ヒタル者並指定シタル者又以テ有效ナガトキトモアリ爲セリ最後ニ親権ヲ行フ者ハ父ナシヨリ至テ母ナシヨリモアルヘシ父母共ニ生存スルトキハ父親権ヲ行ヒ父カ死亡シ家ヲ去リ又ハ親権ヲ喪失シタルトキハ母之ヲ行テラ以テ後見人ヲ指定シルヨリトコト得ル者ハ其夫人言人タクサルヘカラス蓋シ最後ニ親権ヲ行フ者ハ後見人ヲ指定スルヨトヲ得ルハ後見ハ畢竟親権ノ延長シタルモノニ外ナラサルヲ以テ父カ死亡スルモ母カ親権ヲ行フトキハ別ニ後見人ヲ置ケラ必要シシ父ハ無事後見人ト爲ルヘキ者ヲ指定シ置ケラ母ノ死後ニ之ヲ後見人ト爲スドヌトキハ二人ノ親権ヲ行フカ如キ者ヲ生セサルモ何年ノ後ニ在リテ後見人ト爲ルヘキカハ豫メ之ヲ知ルニトヲ得ヌ母カ長き生存スルトキ其間ニハ嘗テ父ノ指定シタル後見人ハ死亡スルヨトモアルベタ又其他身土ニ非常ノ變動ヲ生ヌル事モアルヘクシテ常ニ親権ヲ行フ父ヲシテ後見人ヲ指定セシムルコトト爲ストキハ此ノ如ク不都合アルヲ以テ最後ニ親権ヲ行フ者ヲシテ後見人ヲ指定セシメ成ガヘタ實際ノ必要ニ應シテ適當ハ人ニ舉タルヲ得セシムタル所以ナリ

最後ニ親権ヲ行フ者ニ限リ後見人指定ノ権利ヲ有シ又最後ニ親権ヲ行フ者ハ何人也雖モ其指定ノ権利ヲ有ストノ原則ニ對シ二箇ノ例外アリ第一〇六三
第一、最後ニ親権ヲ有スル者ト雖モ管理権ヲ有セズル時半ハ後見人ヲ指定スルノ權力シ義ニ説キタルカ如ク親権ノ中ニハ子ハ身上権及び管理権ハ二者ヲ包含スレドモ父又ハ母カ管理ノ失當ニ因リテ第八十九七條管理権ノ喪失ヲ宣告矣ラレタルトキ又ハ母カ財産ノ管理権ヲ辭シタルトキハ親権ヲ行フ者ハ其一部身上権ノモテ行フニ過ぎサルナリ而遂ニ親権ヲ行フ者ガ後見人ヲ指定スルハ其承繼人ヲ定ムルニ外ナラサルニ此場合ニ於テ管理権ヲ行フ後見人ヲ指定スルヨトヲ得ルモノト爲ストキハ親権ヲ行フ者ハ自己ノ有セサル職務ニ付キ其承繼人ヲ指定スルモノト謂フベ次是ハ全然本法ノ精神ニ背クモスナルヲ以テ此例外ヲ設ケタルナリテ子大父等ノ親見ノ事例也然則後見人ヲ指定スル事行ブトキハ父ト同ルタ後見人又指定スルヨリノ時以前ニ述ヘタルガ如

シ然レトモ若シ其母ニシテ父ノ生前ニ於テ象メ管理權ヲ辭セタルトキハ母故父ノ死後殘存シテ親權ヲ行フトモ是レ其一部(身上權ヲ行フ事過失シテ財產ノ管理權ハ有セナルト以テ母ハ此場合ニ於テ真第一ノ例外ニ付キ叙述シタル理由ニ依リ自己管理權ヲ有セシシテ管理權ヲ有スル後見人ヲ指定スルコトヲ特セシムヘキ理アラナルト以テ此場合ニ於テ其母アルニ拘ハラス母ナキ場合ト同シク父カ後見人ヲ指定スルコトヲ得ヘモノト爲シタリ、即ち三者並親權ヲ行フ者カ後見人ヲ指定シ得ル場合ハ遺言ヲ以テスル場合ニ限ル之ヲ法律カ遺言ニ限リタルベ元來後見人ノ指定ハ自己ノ死亡後ノ爲ニニスルニ非ナレハ爲スコトヲ得ナルモノナレハナリ故ニ親權ヲ行フ父又ハ母カ其家ヲ去リタルニ因リ其子ニ後見人ヲ要スル場合ニ於テハ從來親權ヲ行ヒタリシ者カ其家ヲ去ルニ臨ミ後見人ヲ指定スルノ權アラナルナリ此場合ニ於テハ第九百五條ノ規定ニ從ヒ親族會之ヲ選任スルモノトス又遺言指定ハ遺言者カ遺言ノ當時ニ於テ指定ノ権利アル者ナルコトヲ要スルコトハ論ヲ埃タス第一〇六三條故ニ遺言ヲ爲ス當時ニ於テ本條ノ資格ヲ有セナルトキハ其遺言ハ全ク效力ヲ

生セヌ又其指定ハ遺言者カ其死亡ノ當時ニ於テ指定ノ権利アル者ナルコトヲ要ス例へハ遺言指定ヲ爲シタル後父又ハ母カ親權又ハ管理權ヲ喪失シ又ハ其家ヲ去リタル後ニ於テ死亡シタルトキハ其遺言ハ全ク效力ヲ生セナルナリ禁治產者ノ法律上ノ後見人第九〇二條 親權ヲ行フ父又ハ母ハ禁治產者ノ後見人ト爲ル
此條大對手妻カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ夫其後見人ト爲ル夫カ後見人タラナルトキ又ハ夫カ未成年者ナシトキハ第一項ノ規定ナリ舊民法人事編第二四條
第二項第三項
據シハ前項ノ規定ニ依ル夫カ禁治產者ニ對シテ法律上當然後見人ト爲ル者ノ規定シテ然モノナリ夫カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ妻其後見人ト爲ル夫カ後見人タラナルトキ又ハ夫カ未成年者ナシトキハ第一項ノ規定ナリ舊民法人事編第二四條
本條ハ禁治產者ニ對シテ法律上當然後見人ト爲ル者ノ規定シテ然モノナリ未成年者ノ後見人ハ既ニ説キタルカ如ク先ツ之ヲ指定スル親權者ノ指定ニ依リテ定マルヘシ不雖モ禁治產者ノ後見人ハ之ニ反対力先づ法定後見人又定メ其後見人ナキ場合無於未始健々親族會之ヲ選任スルモノトス

禁治產ノ宣告ヲ成年者ニ對シテ爲ス又通例ガタトエヒモ然レトモ未成年者ニ對シテ之ヲ爲スコトヲ得支ル至及ニ非外レバ未成年者ニ對シテ其宣告又爲本件ト若くヘシ而シテ未成年者ニ對象アリ父兄亦母又所別然ハ父兄ハ贈え之並對シテ親權ヲ行ヒ父兄亦母又所別然ハ後見人亦リテ之ヲ保護スルヲ以沫別三來成年子女ニ對シテハ禁治產ノ宣告ヲ爲スコトノ必要ナキモノノ如シト雖未成年者ノ行爲ハ其成年ニ達シタル後五年又經過スル人被稱最早之ヲ取消スルト得ス(第一二四條第一項第十六條禁治產者之行爲ハ禁治產取消イ後其行爲ヲ爲シタルコトヲ覺知シタル時ヨリ五年又經過スルニ非ナレハ其取消權ハ消滅セサルナリ)第一二四條第二項第一二六條又未成年者間ニ禁治產ノ請求ヲ爲ナラレハ其者カ成年ニ達シタル後禁治產ノ宣告ヲ受クルマク其者ハ能力者津シガ保護ヲ缺失^{ミツル}至及ヘシ然レ類未年ノ間ニ禁治產ノ宣告又愛カタセトキハ成年ニ達ス所トモ其宣告ノ取消ガレサル間ニ禁治產者ナガメ保謹ヲ受クルノ利益アリ是ヲ以テ未成年者ニ對象アリ禁治產ノ宣告又爲ス所疑ナリ又其證言ハ茲言亦其張口入前相之狀未詳亦猶既不爲大過也

未成年者ニ禁治產ノ宣告ヲ受クル事^シ場合ニ於テアガ父又ハ母ナガ事^シハ父又ハ母ナ未成年者ニ對シテ親權ヲ行ヒテ之ヲ保護スルヲ以テ未成年者カ成年ニ達スルマテノ間ハ父又ハ母ナガ後見人ノ名稱又有及ビノミニシ久其實ニ行^スコムアラサルナリ故ニ父又ハ母ナガ禁治產者カ成年ニ間ハ繼之後見人^シ關スル規定ノ適用ヲ受クルヨリナシト雖^シ禁治產者カ成年ニ達シタルトキハ爾後一般ノ後見人^シ同シタ總^シ後見ニ關スル規定ノ適用ヲ愛クル^シ後見人^シ監督合^ス父又ハ未成年者ニ禁治產者ノ不動產ヲ自己^シ獨斷^シ其處分スルヨリ^シ後^シ其監督夫^シ服スルヨリ^シ要ス^シ治產者カ成年ニ達シタル後ハ親族會人同意又得ル無非才其之ノ處分スルヨリ^シ得ナルナリ又禁治產者カ未成年中ハ父又ハ母ナガ後見監督人ノ監督ヲ受クルヨリナシト雖^シ禁治產者カ成年ニ達シタル後ハ其監督夫^シ服スルヨリ^シ要ス^シ以上ノ如ク禁治產者ニ對シテ其父又ハ母ナガ法定ノ後見人ト^シ之ノ處分スルヨリ^シ在ハ父又ハ母ナガ^シ最^シ能^シ其利益ヲ保護スル者ナガ^シ思^ス力^シ一式場合ニ於テアガ其配偶者又以テ後見人ト^シ夫^シ妻^シ夫婦^シ共同生活ヲ爲シテ

互ニ相愛スル人情アリ又互ニ相扶タルハ義理アル故ニシテ父母ニ比シテ一
居親族ノ關係ヲ有スルヲ以テ之ヲジテ後見人ノ職務ヲ行ハシムルハ最セ其當
ヲ得タヌト謂ブヘシ但配偶者カ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ他ノ一方
ニ第九百七條ノ規定ニ依リ後見人タルヨトメ解シ又ハ第九百八十九條ノ規定ニ依
リ後見人タルコト能ハナルトキ亦親權者ヲ以テ其後見人ヲラシムルコトナリ
爲セラセバ又父祖母祖孫又夫婦等中ハ父又ヘ別ニ對見置替人ノ認定ニ關
又夫カ未成年者ナルトキハ妻其後見人タルコトニシテ親權者其後見人ト爲ル是レ
他ナシ子カ未成年ナルトキハ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ父又ハ母
カ親權ヲ行フモノナレハ禁治產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テモ親權者カ其後
見人ト爲リテ之ヲ保護スルハ至當ノ事タルヨ以テナラシムルコトナリ
未成年者及ヒ禁治產者ノ法律上ノ後見人第九〇三條ニ前二條ノ規定ニ依リテ
家族ノ後見人タル者アラサルヨキハ月主其後見人ト爲ル舊民法人事編第一六
六條第二四條第三項
本條ノ規定ハ未成年者及ヒ禁治產者ニ共通スルモ父又ハ母カ未成年者ニ對シテ

ハ遺言ニ依リテ指定セラレタル者ヲ以テ第一順位ノ後見人ト爲シ禁治產者ニ
對シテハ其禁治產者ノ何者タルカニ依リ父母夫若タハ妻ヲ以テ第一順位ノ後
見人ト爲スコトハ前二條ニ規定スルカ如シ然レシトモ時トシテハ遺言ヲ以テ後
見人ヲ指定セサルコトアルヘタ或ハ父母夫妻ノ孰レモナキ場合アルヘシ縱シ
之アリトモ後見人タルコト能ハナル場合アルヘキヲ以テ此場合ニ於テハ後見
人タルヘキ者ヲ定メサルヘカラサルモノニシテ本條ハ此等ノ場合ニ於テ其無
能力者カ家族ナルトキ其月主ヲ以テ後見人ト爲スコトト爲シタリ
月主ト爲ルニハ成年者タルヲ要セス之ニ反シテ後見人ト爲ルニハ成年者タル
ヲ要ス第九〇八條第一款故ニ月主カ未成年者タル場合ニハ家族ノ後見人ト爲
ルコト能ハナルニトキ其月主ヲ以テ後見人ト爲スコトト爲シタリ
ハ月主ニ對シテ親權ヲ行フ者カ若クハ其後見人タル者アルヘクシテ此場合ニ
於テハ月主ニ對シテ親權ヲ行フ者若クハ月主ニ後見人カ第八百九十五條又ハ
第九百三十四條ニ從ヒ當然家族ニ對シテ後見人タルヘキナリ然レシトモ此場合
ニハ親族會ニ於テ別ニ後見人ヲ選定スヘシトノ說ナキニシモ非サルナリ(民法

修正案参考書^{イニシエイタスヨウカクシ}は、前二條ノ規定ニ依リテ後見人タル者アラザルトキ、後見人ニ親族會之ヲ選任民法人事處第十六七條、第二二四條第四項^{セカイニシエイタスヨウカクシ}、第三條^{セカイニシエイタスヨウカクシ}、規定スル遺言後見人又ハ法定後見人アラサルトキ維シ之アリ。但ニ九百七條ノ規定ニ依リ後見ヲ辭シタルカ又ハ第九百八條ノ規定ニ依リテ後見人タルコトヲ得ナルト吉ハ親族會ニ於テ後見人ヲ選任シルコトヲ爲セリ。此ノ如き場合ニ裁判所ヲシテ後見人ヲ選任セシムル立法例ナキニ非スト。雖モ此場合ニ後見人ノ選任ヲ親族會ニ委スルハ我邦ノ人情ニ最モ適合セリ。オイテナガ誰後見人選任シ爲メ、親族會招集ノ義務第九〇五條^{セカイニシエイタスヨウカクシ}母ガ財産ノ管理ヲ辭シタル後見人カ其任務ヲ辭シ親權ヲ行セタル父若クハ母カ家ヲ去リ又以戸主カ隠居ヲ爲シタルニ因リ後見人ヲ選任スル必要ヲ生シタルトキ、其父母又或後見人ハ通常ナク親族會招集シ又ハ其招集ヲ裁判所並請求スル事ト以要矣。民法人事處第一六八條、第二二四條第四項^{セカイニシエイタスヨウカクシ}、以モ第一種對^{セカイニシエイタスヨウカクシ}、第二種對^{セカイニシエイタスヨウカクシ}、第三種對^{セカイニシエイタスヨウカクシ}。

本條は現在後見人タリ又ハ親權ヲ行シ者カ自己身意思ニ因リテ其任務ヲ辭シタル場合ニ於テハ直ナニ後見人ヲ選任スヘキ必要アルヲ以テ之ヲ選任スル親族會招集セサルヘカラサルコトヲ規定ス。此場合ニ於テ親族會招集スルニ付キ義務ヲ負ヘル者ハ第一、親權ヲ行フ母ガ財產ノ管理ヲ辭シタルトキ、親ニ説キタルカ如ク(第八九九條)親權ヲ行フ母ハ財產ノ管理ヲ辭スルコトヲ得ル。以テ此場合ニ於テハ第九百條第一號ニ依リ後見開始セシムルヘキヲ以テ從來親權ヲ行セタル母カ親族會招集スルハ當然ナリ。第二、後見人カ其任務ヲ辭シタルトキ、後見人ハ其就任ノ前後ヲ問ハス正當ノ事由ヲ滅失^{セカイニシエイタスヨウカクシ}其任務ヲ辭スルコトヲ得ル(第九〇七條)。然ルニ父又ハ母ガ養子^{セカイニシエイタスヨウカクシ}繼祖婚姻本家相繼再興其他ノ原因ニ因ツラ家ヲ去リタルトキ^{セカイニシエイタスヨウカクシ}親權ヲ失フ^{セカイニシエイタスヨウカクシ}ハ當然ナリ。第三親權ヲ行フハ子ト同シ家ニ在ルトキニ限ル(第八七七條)。然ルニ父又ハ母ガ養子^{セカイニシエイタスヨウカクシ}繼祖婚姻本家相繼再興其他ノ原因ニ因ツラ家ヲ去リタルトキ^{セカイニシエイタスヨウカクシ}親權ヲ失フ^{セカイニシエイタスヨウカクシ}ハ當然ナリ。此場合は於テ後見人選任ノ爲メ親族會招集ノ義務

ヲ負ハシムルモ亦當然ナリ第四後見人タニ戸主或隸居候爲家主者戸主方法律上家族ノ後見人タルム戸主タル又資格改ル或微候以候ナラ然若隸居ヲ爲シ戸主ノ位地ヲ退クトキヘ之非同時ニ後見人タル又資格ヲモ失フヘキ可也此場合ニ於テハ後任後見人ヲ選任スニキ必要アリ而シテ此場合ニ於テモ前戸主ヲシテ親族會ヲ招集セシムルハ相當ナリ然ドヨリ第三種證マハヨリ文以上ノ場合ハ總ナ親權者又ハ後見人ノ意思ニ因リテ無能力者ノ後見人ヲ選任スヘキ必要生シタルカ故ニ法律ハ此等ノ者ニ親族會招集ノ義務ヲ負ハシメタル所以ナリ其意思ニ非シテ後見人ヲ選任スヘキ必要ノ生シタルトキ例へハ親權者カ親權若クハ管理權喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合又ハ後見人カ後見人タル能力ヲ失ヒ若クハ免斷セラレタル場合ニ於テハ法律ハ此等ノ者ニ後見人メ選任ヲ要求スルノ義務ヲ負ハシムヘキ理由ナキヲ以テ後見監督人ヲシテ之ヲ請求セシムルコト爲セリ(第九一五條第二號)親權者又ハ後見人カ自ラ親族會ヲ招集スル場合ハ既ニ親族會ノ設アル場合ナリ(第九四九條之ニ反シテ被後見人ノ爲スニ未タ親族會ノ設ナクシテ始メテ之

ヲ招集スル場合ニハ之ヲ裁判所ニ請求セナルヘカラス
後見人ノ員數(第九〇六條)
後見人ハ一人タルコトヲ要ス舊民法人事編第一六二條第ニ二六條)
羅馬法及ヒ外國ノ立法例ニ於テハ往往二人以上ノ後見人ヲ許セトモ(佛民法第四百七條ニハ後見人ノ外ニ副後見人アリ)我邦ニ於テハ此人ノ如キ立法例ヲ採用セス二人以上ノ後見人ヲ許ストキハ實際ニ於テハ便利ナルコトアルヘント雖モ後見人ハ親權ニ類スル權利ヲ行フモノニシテ親權ヲ行フ者ヲ一人ナリト爲ストキハ後見人モ亦一人トセタルヘカラス然レトモ後見人ニシテ二人以上アルトキハ其間ニ意思ノ衝突又生れ隣々家族上ノ紛議リ來シ又ハ各自其責任ヲ他ニ譲リテ被後見人ノ爲スニ不利益ナバコト多カルヘキヲ以テ本法ニ於テハ之ヲナシ人ト爲シタ秀麗シテ後見人ハ其任務繁忙ニ堪ヘナルカ如キ場合ニ於テハ第九百二十六條ノ規定ニ從ヒ親族會ノ同意ヲ得テ有給ノ財産管理者ヲ使用スルコトヲ得タク故ニ實際ニ於テオハ左程大ナル不都合アルヲ見ナルナリ後見人請辭(第九〇七條)
後見人ハ婦女ヲ除ク外左ノ事由アルニ非ナレハ其

任務ヲ辭スルコトヲ得テ、後見人ハ被委託者を於法上、理由で又は其
用一回軍人トシテ現役ニ服スル事下へ或時大セシ不適合で、且やハセリ
又二回被後見人ノ住所又市又分郡以外等於所公務委從事スル者を登録せ
ヘ三回自己ヨリ先ニ後見人タスル者其付等本儀又は次儀ニ掲然タル事由欠
缺存セシ場合ニ於テ其事由カ消滅ジタル事トモ當ニハモニ退本居ニ致ス
テ四回禁治產者ニ付スハ十年以上後見ヲ爲シタル者但配偶者、直系血族及公
益ヘ戸主ハ此限ニ在ラズ人代カセハセリ、然ニテ被見人ニセキ二人以上及上
限五回其他正當ノ事由舊民法人事編第一六三條第四項第十七八條、第二五五條
日本第二十六條、外見人ア育入ナシハ遺嘱ニ付スハ財産代ムロイテ唯ヘセリ
後見人ノ職務ハ原則トシテハ法律上拒辭スル事トテ得ナシ負擔タガ然財ト無
此原則ニハ他國原則猶如ク例外アリ或特別ノ場合ニ於テ法律カ後見人カ其任
務ヲ辭スルコトヲ許セリ後見人ノ任務ヲ辭スルコトハ法律カ後見人タルヘキ
者ヨリ與ヘタル恩典ナシ故ニ後見人タルヘキ者ニシテ此恩典ヲ拋棄セシ服候故
ハ拋棄スルヨリ不得シシ然ビ由モ後見人多シヘキ者カ其免除ノ權利ヲ拋棄セ

ナルトキハ當然後見人タルモノトス而シテ後見人カ其任務ヲ辭スルコトハ就
任ノ前後ヲ問ハス故ニ後見人カ免除ノ事由アルキ拘ハラス就職シタルトキハ
之ヲ以テ絕對ニ其免除ノ權利ヲ拋棄シタルモノト謂フヲ得ナルナリ
法律ハ後見人ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ヘキ事由五箇ヲ規定セリ即チ左ノ如シ
(一) 軍人トシテ現役ニ服スルコト、軍人トシテ此恩典ヲ受タル、現役ノ者ニ
限ル故ニ難備後備役キ在ル者ハ後見人ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ス法律カ現役
ニ在ル軍人ニ此恩典ヲ與タルハ他ナシ現役ニ服スル軍人ハ通常軍隊ニ在ル
者ナルカ故ニ他ノ事務ヲ執ルコト能ハナルコト多ク又軍人ノ紀律ハ他ノ官吏
ニ比シ數層厳酷ナルカ故ニ後見人タルカ故ニ毫モ其本分ノ職ヲ怠ルコト能
ス故ニ此ノ如キ者ヲシテ後見人タラシムル下キハ却テ被後見人ノ爲メ不利益
タルコトアリ又後見人タルヘキ者ニ付テ言ハム嚴重ナル固有ノ職分アル者
後見ノ任務ノ如キ重大ナル責任ヲ負担シムル甚ダ諸事失スルヲ以テナリ
(二) 被後見人ハ住所ノ市又ハ都以外ニ於テ公務ニ從事スルコトハ現役ニ在ル
軍人ヲ除クノ外他ノ官吏、公吏等公務ニ從事スル者ハ被後見人ノ住所ノ市又ハ

郡内ニ於テハ公務ノ餘暇ニ於テ後見人ノ任務ヲ爲ス事未更得ヘ者ト雖キ若シ後見人タク被後見人ノ住所ノ市又ハ郡以外ニ於テ任務ヲ執ルトキハ其任地ヲ離ルベコト能ハナル場合アルトク之ニ強ヒテ後見人ノ任務ヲ執リシムルトキハ公務ノ妨ト爲テ余タク此ノ如キ者ハ後見人タルトキハ十分ニ其任務ヲ盡エコト能ハシムテ被後見人タク爲ス不利益タルトク又後見人タルトキ者ニ付テ言ヘバ甚タ苟勵オルヲ以テ法律ナ此場合ニ於テハ後見人ノ任務ヲ辭スルコト許セリ
(一) 本條ニ於テ前項事由ハ、又ハ、本條ニ於テ後見人ノ職務ヲ執ル場合ノミヲ指スニ非スレバ公證人、執達吏、議會議員等タ公務ヲ以テ繼續シテ自ノ業務ヲ執ルコトヲ謂フナ又ハ、
(二) 自己ヨリ先ニ後見人タルヘキ者ニ付キ本條又ハ次條ニ掲クタル事由ノ存セシ場合ニ於テ其事由ヲ消滅シタルコト、遺言ヲ以テ親權者ヨリ指定セラレタル後見人第九〇一條其他法律ノ規定ニ依リ後見人タルヘキ者父母夫妻第九〇二條戸主第九〇三條其他ノ者第九〇四條カ法律ノ規定シタル事由本條及セ次條アリヲ其任務ヲ辭ヘルカ若クハ後見人ト爲ルモ止む得サ所場合ニ於テ被

他ノ者カ後見人ト爲ルヘシト雖モ他人ノ者カ後見人ト爲ル者ハ全ク元來後見人タルヘキ者ニ辭任又ハ後見人タルヨトノ無資格ノ事由生ジタルモ由ル故云其事由ニシテ止ミタルトキ其者シテ固有ノ順位ニ復シテ後見ノ任務ヲ執ラシムヘキハ正當ナリ例ヘバイ遺言後見人カ軍人トシテ現役ニ服セルノ故ヲ以テ其任務ヲ辭シテ禁治產者ノ後見人タル父又ハ母カ自己禁治產ノ宣告ヲ受ケテ後見人タル能力ヲ失ヒ夫又ハ妻カ未成年者ナルトキ親權者カ其配偶者又ハ後見人ト爲リタル場合ニ於テイノ軍人カ豫備役ニ入リ(分)父又ハ母ニ對スル禁治產ノ宣告ヲ取消サレバノ夫又ハ妻カ成年ニ達シタルトキハ此等ノ者ハ法律上舊位置ニ復シテ當然後見人タルモノニ非ス此場合ニ於テ本號ノ規定ニ依リ後見人カ之ヲ理由トシテ其任務ヲ辭スルヨトコトニ止マリテ法律ニ何故ニ辭任又ハ除斥ノ原因ニタルトキハ後見人タルタルカリシ者ア當時後見人ト爲ササルカ是ヤ他ナシ後見人カ屢々變更スルハ被後見人ノ爲ス概不不利益スルト辞任又ハ除斥ノ原因中其消滅シタルヤ否を煩ル不明ナルモノアリク之カ爲メ争訟ヲ生スルノ處アリ而シテ其裁判確定ノ結果往往ニシテ前

後見人カ一定ノ期間内其任務ヲ不當ニ行ヒ法律上後見人タルベキ者カ其任務ヲ行ヘサリシカ爲スニ種種煩雜ナル問題ア惹起スヘキヲ以テナリト
 (四) 禁治産者ニ付テハ十年以上後見ヲ爲シタルコト未成年者ニ對スル後見ノ年限ハ豫メ一定スルモノニシテ如何ニ長クトモ二十年ヲ超過スルコトアリテルナリ而シテ未成年者ニ對シテハ最初ニ親權者アリテ之ヲ保護シ親權者カ死亡シ家ヲ去リ又ハ親權ヲ喪失シタル等ノ場合ニ於テ後見ニ付セヌアルコト多キカ故ニ二十年間後見人アルコトハ寧ロ福ナルヘキナリ之ニ反シテ禁治產者ニ對スル後見ノ任期ハ豫メ何年繼續スヘキ也ノナルヤラ知ルユト能ハサルナリ然ルニ正當ノ理由ナキニ於テハ禁治產者ノ畢生間モ繼續スル後見ノ任務ヲ辭スルコト能ハサルモノト爲スハ甚タ酷ニ失スルヲ以テ禁治產者ノ後見人ハ十年ヲ經過シタルトキハ之ヲ辭スルユトヲ得ルモノト爲セリ是レ外國ノ立法例ニ於テモ多ク見ル所ノ規定ナリ

此規定ニハ例外アリ即チ配偶者直系血族及ヒ月主カ後見人タル場合はナリ此等ノ者ハ當然禁治產者ヲ保護スヘキ地位ニ在ル者ニシテ若シ此等ノ者カ其後

見ノ任務ヲ辭スルトキハ之ヨリ一層關係ノ薄キ者ヲ以テ後見人ト爲ササルヘカラツアルニ至リ頗ル不當タルヲ免レサレハナリ法文上ノ解釋トシテハ此但書ハ此等ノ者ハ後見ノ任務カ十年ニ満タサルトモ辭スルコトヲ得ヘキ趣旨ト見ルコトモ得ヘシト雖モ本條規定ノ精神ニ依リテ前ノ如ク解釋セサルヘカラツルナリ

(五) 此他正當ハ事由、以上列舉シタル事由ハ法律カ認メテ以テ後見ノ任務ヲ辭スルニ足ルト爲シタルモノナレトモ此他ニ於テモ事實上後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ許スニ足ル事由アルナリ例へハ病身ニシテ其任務ニ堪ヘナル場合公務被後見人ノ住所ノ市又ハ郡内ニ於テ從事スル多忙ニシテ到底後見ノ任務ヲ執ルコト能ハサル場合、一家生計ノ都合ニ依リ被後見人ノ住所ヨリ遠隔ノ地ニ移住セサレハ一家ヲ糊スルコト能ハサル場合ノ如キハ後見ノ任務ヲ辭スルコトアリテカラス而シテ此正當ノ事由トハ事實問題ニ屬ス所難以テ裁判所ノ査定モ依リテ定アルベキナリ此種問題ハ實體上問題也、實體上問題ナリ

以上ハ後見ノ任務ヲ辭スルコトヲ得ヘキ事由アルカ婦女被後見人ナム同上

法律ハ以上ノ理由ヲ其任務ヲ辭タルコト得ハセ致シ爲父祖義之女戸主カ
隣居ヲ爲ス場合第755條及モ母カ親權者ナルトキ財産ノ管理ヲ辭スルヲ得
ルトニ付キ叙述シタルカ如ク婦女ニ事務ニ其種格ニ於テ財産管理ヲ適者
強ヒテ之ニ後見人タルノ義務ヲ負ムシムルハ我邦ニ事情ニ適セズルア以テ此例
外規定ヲ設ケタルナガリ未だ情く尋常ニ有セば無異人ノ過誤也然而ニ
後見人タル不能力(第九〇八條)左ニ掲ゲタル者ハ後見人タル事務ヲ得ズ
未一未成年人者ニ事務ヲ行セバ又ハ贈与等其財産ニ關する事務ヲ行セ
第二禁治產者及ヒ準禁治產者ニ事務ヲ行セバ事實上無能、封鎖又相
第三剝奪公權者及ヒ停止公權者ニ事務ヲ行セば封鎖又相
第四裁判所ニ於テ免職セラレタル法定代理人又ハ保佐人等の選定ノ権限
第五破產者ニ事務ヲ行セば監督官等の監督を受ケ、破產者又は其配偶者並ヒ直系血
第六被後見人ニ對シ訴訟ヲ爲シ又ハシタル者及ヒ其配偶者並ヒ直系血
第七行方シ知レナル者ニ就キ一括清算ノ権利又ハ清算方法を決定せらる
八裁判所ニ於テ後見人任務ニ堪ヘ未然事跡不正ノ行爲又ハ著シキ不行跡
アリト認メタル者ニ民法人事務第一八〇條乃至第一八二條第二二六條
舊民法人事編ニ於テハ後見人ノ缺格之場合ト除斥及ヒ罷黜ノ場合トヲ分離テ
規定シ佛國民法モ亦然リ第四四二條乃至第四四九條ト雖モ本法ハ之ヲ括シ
ヲ本條ノ規定ヲ設ケタリ故ニ本條ニ掲ケタルモノヲ詳細ニ分析スルサキハ最
初ヨリ後見人ト爲ル能力オキ者アリ半途ニシテ其能力ヲ失フ若アリ又ハ元來
ノ能力ハ有スルモ自己ノ過失不右跡等ニテ後見人タルヨリ財産管轄ヲ失ヒタル
者其他種類ノ者不レント是レ畢竟孰レ後見人タルコトヲ得サル理由ナルニ
外ナヌナルカリ
後見人ハ被後見人ノ身上ヲ保護シ及ヒ財産ヲ管理スル重要ノ職務ヲ行フモノ
ナルヲ以テ被後見人ト爲メ無不利益ト見ラタル者ハ之ニ怪スルコトヲ禁セ
ルヘカラス本條ニ列舉セタル者皆法律ヲ據後見人成爲シニ不利益ナル者ト焉
做セタルナリ而シテ此等之者ハ最初ヨリ後見ノ職ニ就クコトヲ得サルノミナ
(ラス)一旦後見人未爲リタル場合雖モ當然其職ヲ失フ事キ生ツ事ニハ前見人

(一) 未成年者、人未成年者ハ自身後見ニ服被其權ナガラ故ニ之ニ他人ノ後見人
者ルコトヲ禁シルハ固ヨリ論ア族次ナル方通ニ據ニテ、
(二) 犯治產者及ニ罪犯治產者、是レ亦未成年者ノ如後自ラ已テ書上及注財識
ヲ保護スルコト能ハヌシテ後見ニ付セラレ又ハ保佐人ノ輔助ヲ必要ニ爲ス者
ナルカ故ニ到底他人メ後見人タルニハ適ナシアルヲタリ、重要ニ照拂ミシムエ
(三) 剝奪公權者及ニ停止公權者、刑法第三十二條、第三十三條、第三十四條ノ規
定ニ依リ重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ終身公權ヲ剝奪セラル、禁錮ニ處セラレ
タル者ハ其刑期間輕罪ノ刑ニ處セラシタル者ハ監視ノ期限間公權ヲ停止セラ
ルルモノニシテ此ノ如キ者ハ信用少キ者ナレハ之ヲ被後見人ノ財產ノ管理ヲ
託スルハ被後見人ノ不利益タル後見人タルコトハ一面ニ於テ義務ナレトモ
亦他ノ一面ニ於テハ權利ナレ、國家カ以上ノ如キ犯罪者ニハ後見人タルコト
ノ名譽ヲ有スルコト得ナルモノト爲シタリ但刑法第三十一條第七號ノ規定
「親屬ノ許可ヲ得テ子孫ノ爲メニスルハ此限ニ在ラストアレトモ是レ本條ノ規
定ト抵觸スルモノニシテ刑法ノ規定ハ本條ノ規定ニ依リテ改正セラレタルニ

外ナラカハナリ數種ニ異議會ニ請求スルモノイテ要ニ義理且其人事議論ニシテ
(四) 裁判所ニ於テ免職セラレタル者ノ家庭代理人又ハ保佐人、前法定代理人例ハ
裁縛者後見人不在者ノ財產管理人法人ノ理財清算人相続人ノ賃領飲食セル遺產ノ
管理人、遺言執行者又ハ保佐人等其任モ適セサバモトクタリコトヲ認メラレタル
者カ更ニ後見人タルニ適セラレタルコトより明カナルヲ以テ此ノ如キ者ハ一タヒ裁
判所ニ於テ免職セラレタル後見人ト爲シテト得ナシモ無事と爲セ
然レトモ是レ先ニ免職セラレタルコトカ裁判所ニ於テセラレタル者ニ限ル故
ニ第九百十一條第一項、第九百十七條第三項、第九百十九條第三項ノ規定ニ依リ
親族會ヨリ免職セラレタル後見人ハ此規定ノ適用ヲ受ケサルモノトス
(五) 破産者、破産者ハ財產上ノ信用力キ者ナレハ後見人トシテ之ヲ財產ノ管
理ヲ委スルハ被後見人ノ爲メ甚タ不利益ナリ而シテ民法施行法第二條第三條
ノ規定ニ依リ家資分散者及ニ以前身代限ノ處分ヲ受ケテ未タ其債務ヲ辨清セ
タル者ハ破産者ト同視セラケルモノトス

(六) 被後見人ニ對シ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者及ヒ其配偶者並ニ直系血族

被後見人ニ對シ訴訟ヲ爲シ又ハ爲シタル者ノ如キハ被後見人ト利益相反スルモノト看ルコトヲ得ヘケレハ此ノ如キ者ヲ其後見人ト爲スハ被後見人保護ノ途ニ非ナルナリ又其者ノ配偶者及ヒ直系血族モ同様ナリ後見人ト爲ル事ヲク得ナルナリ、英國ノ法規は被後見人ハ詐欺又ハ誤用ミセム者ナリ

(七) 行方ハ知ハズハ者此ノ如キ者カ後見ノ任務ヲ盡スコト能ハズアルハ當ツタスハ後見人之於此ノ如キ者ヲ其後見人ト爲スハ被後見人保護ノ途ニ非ナルナリ

(八) 裁判所ニ於テ後見ノ任務ニ堪ヘサル事跡不正ハ行爲又ハ著シキ不行跡アリト認ハタル者此規定ハ第四號ト同趣旨ナリ第四號ハ他ノ後見其他ノ法定代理ニ付テ裁判所ニ於テ免職セラレタル者ナレトモ茲ニ規定スル者ハ其後見ニ付キ特ニ其任ニ堪ヘタル者ト認メラレタルノ差アルナリ

保佐人第九〇九條前七條ノ規定ハ保佐人ニ之ノ準用スル者ト表スル者ト準治產者トノ利益相反スル行爲ニ付テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルコトヲ要ス(舊民法人事編第二一七條)

第二二四條第二項乃至第四項第二二二五條、第二三三條第三項、第二三三條第一項)

未成年者及ヒ準治產者ニ於ケル後見人ト準治產者ニ於ケル保佐人ト其性質相類ス準治產者ハ準治產者ニ比シテ其無能力ノ程度稍ヤ輕キカ放ニ唯其保護ノ程度薄キノミニシテ後見人ト其規定ヲ異ニスル理由アラナルヲ以テ後見人ノ規定ニ關スル前七條(第九〇二條乃至第九〇八條ヲ保佐人ニ準用スルコトト爲セリ)保佐人ノ利益ト準治產者ノ利益ト相反スルコトアリ(例案ハ保佐人ト其保佐スル準治產者ト契約ヲ爲シ又ハ其一方ヲ相手トシテ訴訟ヲ爲スカ如キ是ナリ)又保佐人カ代理權ヲ有スル第三者例ヘハ保佐人カ第三者ノ後見人タルトキ其第三者ノ利益ト準治產者ノ利益ト相反スルコトアリ此場合ニ於テ保佐人ハ自己又ハ其代理スル第三者ノ利益ヲ圖ス爲メニ準治產者モ高カ行爲ヲ許可スルノ處ナシトセス故ニ此場合ニ於テハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スル者ノ爲シントスル行爲ヲ許可セシムハコトト爲セリ故ニ其必要アリ場合ニ於テハ保佐人ハ臨時保佐人ノ選任ヲ親族會ニ請求スルモトアリ是ベ

親權ノ效力ニ關スル第八百八十八條ノ規定ト同一ノ趣旨ニ出ヲタル規定ナリ
而シテ後見人ニ付ヲハ之ヲ監督スル者アリテ以上ノ如キ場合ニハ第九百十五
條第四號ノ規定ニ依リ其監督人力被後見人ヲ代表スルカ故ニ被後見人ノ利益
ハ十分ニ保護セラルヘキ途アリト雖モ準禁治產者ニ付ヲハ此ノ如キ者アリカ
ルヲ以テ右ノ如キ規定ヲ特ニ設ケタルナリスホドモ此種合ニ付テ親權人

第一款 後見監督人
後見監督人トハ後見ノ一機關ニシテ後見人カ果シテ能ク其任務ヲ盡ス事否等
ヲ監督シ或場合ニ於テハ被後見人ノ爲メニ自ラ必要ナル處分ヲ爲シ被後見人
ト其後見人ト利益相反スル行爲ニ付ヲハ被後見人ヲ代表ス而シテ舊民法人事
編ニ於テハ之ヲ置クコトヲ必要ト爲サヌリ舊民法人事編第一六九條第二項
ト雖モ後見ノ制ヲシテ弊害力カ無シヌベシ欲セハ之ヲ置クノ必要ガアルヲ以テ
本法ニ於キ之ヲ親族會ノ自由ニ任せシテ必ス置ム旨ト爲シテル(佛國民法亦
然リ)一四外傳ニ取次主義四段第十二五五條第十三二五條第十三三五條第一項

遺言後見監督人トモ謂フ第九〇〇條後見人ヲ指定スル者
ヲ得ル者ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得舊民法人事編第一六九
條第二項(後見監督人ヲ置カルニシテ要ニ善ム事ニ當スル者ニ付テ
後見人ニハ遺言ヲ以テ指定シタル者第九〇一條法定ノ後見人(第九〇二條第九
〇三條及ヒ遷忘後見人第九〇四條ノ三種アレトモ後見監督人ハ遺言ヲ以テ指
定シタル者ト親族會ニ於テ選定シタル者トニ限レリ而シテ後見監督人ニ法定
ノ者ヲ設ケサルハ他ナシ後見監督人ハ後見人ヲ誰タルコトノ定マリタル上之
ヲ監督スルニ適當ナル者ナラサルベカラサルヲ以テ法律上豫メ後見監督人ヲ
指定ムルヲ得サレハナリ又ヨリ前此ノ事例ノ主文ハ既述會ニ付テ應付
本條ハ遺言ヲ以テ後見監督人ヲ指定スルコトヲ得ヘキ者ノ規定シタル既シテ
シテ遺言ヲ以テ後見人ヲ指定スルコトヲ得ヘキ者第九〇一條ハ後見監督人ヲ
指定スルコトヲ得而シテ父母ハ時ヲ異ニシテ各親權ヲ行フコトアリト雖モ第
九百一條ノ規定ニ依リ最後ニ親權ヲ行フ者ニ非ツルハ後見人ヲ指定スルコト
ヲ得サルヲ以テ親權者ニシテ後見人及ヒ後見監督人ヲ指定シタルト得ム必ス

此兩者ハ同一ノ人ノ指定ニ係ルヘキヲ以テ法律ハ同一ノ人ノ指定ニ係ル後見監督人ハ能ク後見人ヲ監督スルニ適シタル者ト看做シタルナリ然シトモ親權者カ此等兩者ノ中一人ヲ指定シ他ノ一人ヲ指定セナルコトアリ若レ後見監督人ニシテ指定セラレナリシトキハ次條ノ規定ニ從ヒ親族會ニ於ク之ヲ選任セナルヘカラス之ニ反シテ親權者カ後見監督人ノミヲ指定シテ後見人ヲ指定セナリントキハ第九百三條及ヒ第九百四條ニ從ヒ戸主又ハ親族會ニ於テ選任シタル者後見人タルヘシト雖モ此場合ニ於テ後見監督人ハ前ニ定マレルヲ以テ果シテ其者カ後ニ定マレル後見人ヲ監督スルニ適スル者ナルナハ知ルコト能ハナルヘキナリ

選定後見監督人(第九一條)前條ノ規定ニ依リオ指定シタル後見監督人ナシトキハ法定後見人又ハ指定後見人ハ其事務ニ著手スル前親族會ノ招集ノ裁判所ニ請求シ後見監督人ヲ選任セシムルコトヲ要ス若シ之ニ違反シタルトキハ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得

親族會ニ於テ後見人ヲ選任シタルトキハ直ナニ後見監督人ヲ選任スルコトヲ

要ス(舊民法人事編第一六九條第一項第二項第一七〇條)
前條ニ規定シタルノ指定後見監督人ナキトキハ親族會ニ於テ後見監督人ヲ選任スルモノトス而シテ之カ爲メニ親族會ノ招集スルニハ法定後見人(第九〇二條)
第九〇三條又ハ指定後見人第九〇一條ガ其事務ニ著手スル前裁判所ニ之カ申請ヲ爲ナルヘカラヌ若シ後見人カ此手續ヲ爲ナシテ其事務ニ著手シタルトキハ其裁判トシテ親族會ハ其後見人ヲ免職スルコトヲ得ルモノト爲セリ而シテ法律カ後見人ノ事務ニ著手スル前親族會招集ノ請求ヲ爲スコトヲ要スルト爲シタルハ蓋シ民法ニ於テハ被後見人ノ利益保護ノ爲メニ後見ノ機關下シテ後見人ノ傍ニ後見監督人アリテ始終後見人ヲ監視スルコトト爲シタル故ニ若シ後見監督人ナキ場合ニ於テ後見人カ其事務ニ著手スルコトヲ得ルモノト爲ストキハ後見人ハ被後見人ノ財產ヲ私スルヤモ知ルヘカラス又後見人ノ事務如何ニ不整頓ナリト雖セ之ヲ監督整理セシムル者アリスシテ被後見人ノ不利益ト爲カヘシ又後見監督人ナクシテ後見人カ其事務ニ著手スルトキハ法律カ第九百十七條ニ於テ後見人ニ命シタル被後見人ノ財產ノ調査ヲ爲シ及ヒ其

目錄又調製子然ヨリモ能ガサルカ夫何レナシ此財產調査及、目錄調製後見監督人人立會方タリノ爲スミトヲ得テ九月三十日ハ、前條以上ノ義務ヲ負ヘル後見人ハ法定又ハ指定ノ後見人ニ限ル若シ後見人ニシテ親族會ニ於テ選定セラルモノ第九〇四條ナルトキハ親族會ノ招集ヲ請求スルノ要ナキナリ蓋シ法定後見人又ハ指定後見人又ハ後見人開始ノ場合ナル故前未被後見人ノ爲スニ親族會が成立シ居ラガル時第九四九條オレトモ法定後見人又ハ指定後見人ナクシテ親族會が後見人ニ選任スミト場合ニ於テ特テ後見監督人ヲ選任スルカ爲スニ親族會ノ招集スルノ必要ナク其後見人選任ノ爲スニ招集セラルトキハ親族會示於オ同時示後見監督人ヲ招集スルヤ可ナリ故此場合ニ本條第三項ヲ設ケ親族會示於オ後見人ニ選任スルダ上カ第九〇四條直ニテ後見監督人ヲ選任スルトモ著要件ナシハナリエヘイエ而シテ之を以テ親族會ノ招集ナリニハ昭和廿八年八月二日昭和廿八年八月二日後見監督人ハ改選書(一)第九百古九條ナリ後見人就職後後見監督人ナリ缺ケタム後見監督人ハ改選書(一)第九百古九條ナリ後見人就職後後見監督人ナリ選任セシムルコトヲ要トキヤ後見監督人ハ選任セラレタル場合ニ於テハ速ニ前後見監督人ヲ選任セサルヘカラサルヲ以テ後見人タルニ因リ缺クアリ或ハ第九百七條ノ事由ケルニ因リ解任スルトアリ第一六條或ハ第九百八條ノ事由アルニ因リ免職セラルコトアリ此等ノ場合ニ於テハ速ニ前後見監督人ヲ選任セサルヘカラサルヲ以テ後見人タルニ因リ缺クアリ或ハ第九百七條ノ事由ケルニ因リ解任スルトアリ而シテ此場合ニテモ後見人カ此義務ニ違反シタバトキハ之ニ前條ト同一ノ制裁ア加ヘ親族會ニ於テ免職スルコトヲ得ルモノ上爲セリ蓋シ是此場合ニ於テモ後見監督人ハ彼後見人保護ノ爲メニ一日モ缺クヘカラナルモノタルニ後見人カ後見監督人ナキミトア知リナカラシカ運任ヲ促スコトヲ爲サナルニ不正ノ行爲ヲ爲ス爲ヌカ然ラサレハ非常ノ怠慢者ナルヲ以テナラズ道良人ノ理

ス此場合ニ於テ前條第一項ノ規定ヲ準用(舊民法大事編第一六九條第一項)
第二項第六七〇條後見監督人ナシモ證書ナシモ書面ナシモ前條監督人モ
前條ハ後見人就職之際後見監督人ナカリシテ以テ之カ選任メ方法ヲ規定シタルモナカレトモ本條ハ之ナ異ナリテ後見人就職之際後見監督人アリシモ其後ニ至リテ缺ケタル場合ヲ規定セリ後見監督人ニ選任セラレタル者カ死亡シタルニ因リ缺クアリ或ハ第九百七條ノ事由ケルニ因リ解任スルトアリ第一六條或ハ第九百八條ノ事由アルニ因リ免職セラルコトアリ此等ノ場合ニ於テハ速ニ前後見監督人ヲ選任セサルヘカラサルヲ以テ後見人タルニ因リ缺クアリ或ハ第九百七條ノ事由ケルニ因リ解任スルトアリ而シテ此場合ニテモ後見人カ此義務ニ違反シタバトキハ之ニ前條ト同一ノ制裁ア加ヘ親族會ニ於テ免職スルコトヲ得ルモノ上爲セリ蓋シ是此場合ニ於テモ後見監督人ハ彼後見人保護ノ爲メニ一日モ缺クヘカラナルモノタルニ後見人カ後見監督人ナキミトア知リナカラシカ運任ヲ促スコトヲ爲サナルニ不正ノ行爲ヲ爲ス爲ヌカ然ラサレハ非常ノ怠慢者ナルヲ以テナラズ道良人ノ理

本條ニ於テハ前條第異ナシ又後見人未肩及親族會ヲ招集スベハ被後見人ノ爲

シ既ニ親族會設ケルヲ以テ別處裁判所ニ之カ招集ヲ請求スルノ必要ナケレ
ムナリ(第九四九條)等會員人報道、案文ニ「日刊紙等ハ其モセハホヘニ」

(二) 第九百十三條ニ後見人ハ更迭アリタルトキム親族會ハ後見監督人ヲ改選

スルコトヲ要す但前後見監督人ヲ再選スル豆下ヲ妨ケズ

新後見人カ親族會選於テ選任シタル者非サルトキム後見監督人ハ選出ナク

親族會ヲ招集シ前項ノ規定ニ依リテ改選ヲ爲シシムルコトヲ要ス若シ之ニ違

反シタルトキム後見人ノ行爲ニ付キ之ヲ連帶シテ其實ニ任スヨリモア

後見監督人ノ改選ハ後見監督人自身ヲ缺ケタル場合ニ限ルモノ非ヌ後見監

督人ハ依然タルモ後見人ハ更迭アリタルトキム亦改選セラルルモノトス是レ

後見監督人ノ職務ノ性質ヨリ属性スル規定位ナシ後見監督人ハ後見人ノ誰ナルカ

フ定マリタル後見人之ヲ選任シタルヲ原則ト爲シ職ニ叙述をタルカ如ク後見監督

人ハ後見人ノ能シ其任務ヲ盡スセ否ヤア監督スル者ナレハ後見監督人ヲ選任

スルニ當リテ又其後見人ト期間並於ケル親族上財產上權ノ諸關係從來ノ經歴

年齢及ヒ智能等ヲモ参考ト爲シ此後見人オルガ故ニ彼ノ後見監督人ニテ適當
ナリト爲シ總テノ標準ヲ後見人ニ取リテ之ヲ定メタルモアナル必故ニ若シ其
標準タル後見人ニシテ更迭アリタルトキハ之ニ伴ヒテ後見監督人ヲ改選ス
キハ當然ナリ然ラサレハ智能其他ノ關係ニ於テ後見監督人ニ優ツタニ後見人
就任シタルトキハ以前ヨリ繼續スル後見監督人ニテハ到底新任ヲ後見人ヲ監
督スルヲ得サルコトアルヘシ故ニ後見人更迭ノ場合ニ於テ親族會カ後見人ヲ
選任シタルトキハ其選任ト同時ニ後見監督人ヲ改選スルコトヲ要スト爲シタ
ソ然レトモ實際前後見監督人ニシテ新後見人ヲ監督スルニ適任タルニ於テハ
親族會カ前後見監督人ヲ再選スルコトハ毫モ差支ナキヲ以テ但書ノ規定ヲ加
ヘタル所以ナリ

新後見人カ親族會ニ於テ選任シタル者ニ非サルトキ例ヘシ指定遺言ノ以テ前
後二人ノ後見人ヲ指定シ甲死亡セハ乙ヲ後見人トスル所如き場合又ハ法定ノ
ナシメサルヘカルス而シテ此場合ニ於テモ親族會ヲ招集シ自己ノ改選又爲

ムルニ於テハ同シタ再選スルコトヲ得ヘキナリ。但其良選監督人ハ監督ノ職
後見監督人カ若シ指定又ハ法定後見人ノ新ニ就職シタ時拘泥ス自己メ改
選ヲ爲スヘキ手續ヲ盡サツル下キハ親族會ハ其職權ヲ以テ之ヲ改選ス所ニト
ヲ得ル。勿論ナレトモ後見監督人ハ著シキ怠慢者又ハ新後見人上通謀シテ怠
曲ヲ行ハント欲スル者ト看做シ新後見人ノ爲シタル行為ニ付テハ之ト連帶シ
ク其實ニ任スルコトト爲シタリ。此制裁ハ後見監督人ニ對シテノミ存シ親族會カ第一項メ場合ニ於テ後見監督
人ノ改選ヲ怠リタル場合ニハ如何ナル制裁モ之ヲキモハノ如ク疑フ者アルヘ
シト雖モ親族會ニ對シテハ第九百五十三條ノ規定アルカ故ニ其改選ヲ怠リタル
カ爲メニ被後見人ニ損害ヲ生シタルトキハ其責ヲ解スルコト能ハズルナリ。
後見監督人タル不能力第九百四條ハ後見人ノ配偶者直系血族又ハ兄弟姉妹ハ
後見監督人タルコトヲ得ス。後見監督人ノ配偶者直系血族又ハ兄弟姉妹ハ
後見監督人タルコトヲ得サル場合ハ種種アリ後見人タルコトヲ得サル場合ア
リク第九〇八條無能力者破産者又ハ裁判所ニ於テ不適任ト認ダラシタル者カ
如ク

ルカ故ニ後見監督人ト爲シコトヲ得サルコトアリ(第九一六條)又後見人ト後見
監督人トノ關係上或種類ノ人ニ限リテ之ヲ後見監督人ト爲スコトヲ得サルア
リ如何ナル者ヲ後見監督人ト爲スコトヲ得ヘカラサルモノト爲スカナ諸國ノ
立法例同シカラス佛國民法第四二三條ノ如キハ或場合ヲ除ク外ハ後見監督
人ハ之ヲ兩系父系ノ中後見人ノ屬ニサル系中ヨリ之ヲ選擇スヘキモノト
爲セリ。但其良選監督人ニ於テ後見監督人カ後見人ノ配偶者直系血族又ハ兄弟
姉妹ハ即チ後見監督人カ後見人ノ配偶者直系血族及ヒ兄弟姊妹等ノ如ク近親ノ間柄
ニ在リテハ其愛情最モ深キヲ當キタルカ故ニ後見人カ私曲又ハ不行跡等ノ事
アルトモ情實ニ流レタ後見人ノ庇護シ十分ニ之ヲ監督スルコト能ハナルコト
アリ此ノ如クナルトキハ被後見人ノ不利害ナリ以テ法律ハ以上列記各々點
者ヲ以テ後見監督人タル資格ナシモジキ爲シタケナリ雖ニ點狀未シ即ち

又後見監督人の方ガコトヲ得サル他ノ場合公第九百十六條ニ規定スル所タリ即チ後見監督入タルコトヲ得サル場合セラ後見人ノ扶助ヲ場合ト同シ監督故ニ後見監督人ニ第九百八條ノ規定ヲ準用スルコトトニ爲シテラハ「イニ斯ハセキニテ後見監督人ノ職務第九百五條當後見監督人ノ職務左ノ如其父ヘ不許越權ノ事」
一、後見人ノ事務ヲ監督受カルコトハ其血親並祖父母ノ兄弟並孫等ハ或く遺嘱ノ開封
二、後見人ノ缺かタ是場合公於ア運送ナク其後任者ノ任務ニ就クコトニ促
シ若シ後任者ナキトキム親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲シジタルコトハ
本三、急迫ノ事情アリの場合公於ア必要ナル處分ヲ爲ス時ト夫婦及配偶人
四、後見人又ハ其代表スル者ト被後見人トノ利益相反スル行為ニ付キ被後
見人ヲ代表スルヨト(舊民法人事編第二十九八條乃至第二〇〇條)
後見監督人ノ職務、主トシテ後見人ヲ監督スルニ在レドモ其職務ハ尙ホ之ヲ
ミニ限ラス或場合ニハ被後見人ヲ代表シ又ハ必要ナル處分ヲ爲スセキト等アル
ヲ以テ今其職務ヲ左ニ順次叙述セシム
第一、被後見人ノ事務ヲ監督スルヨリセハビテ(添此一六章又餘見人ノ餘見
後見人ニ對シ財債難ヲ有ル又ハ債務ヲ負フセキハ財產ノ調査を著手ハル前ニ
之ヲ後見監督私中出ツルコトヲ要ハル第九百十九條第ニ項ノ規定後見人カ
其管理ノ計算ヲ爲スニ當ルテキ亦後見監督人ノ立會ヲ必要スル第九百三十
八條第一項ノ規定ノ如キ是ナシ
後見監督人ハ其監督ノ結果ニ依リ後見人ノ管理上ノ不能又ハ不正實ノ事跡ヲ
發見シタマニ當其公直セ相当の處置ヲ爲サヌベヘカラハ監督セム又ハ衣
第二、被後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遺贈ナク其後任者ノ職務ニ就ク其時押促
シ若シ後任者ナキトキム親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲シジタルコトハ組合ニ
後見人ト被後見人ノ事務ヲ監督スルヨリセハビテ(添此一六章又餘見人ノ餘見

此職務ハ最モ重ナルセソニシテ後見監督ノ目的ハ後見人カ能之其任務ヲ盡攝
キ否々其事務メ執行方法規ニ違反シ又ハ被後見人ノ利益更害スルコトナシ度
否セラ監視スガニ在リ而シテ此目的ヲ達スルカ爲シテ設ケランタル規定亦
勤少ナラナルナリ後見人カ被後見人ノ財產ヲ調査シ其目錄ヲ開製スルセ當
テ後見監督人ノ立會ヲ必要計ハシタル第九百十七條第二項ノ規定後見人カ被
後見人ニ對シ財債難ヲ有ル又ハ債務ヲ負フセキハ財產ノ調査を著手ハル前ニ
之ヲ後見監督私中出ツルコトヲ要ハル第九百十九條第ニ項ノ規定後見人カ
其管理ノ計算ヲ爲スニ當ルテキ亦後見監督人ノ立會ヲ必要スル第九百三十
八條第一項ノ規定ノ如キ是ナシ
後見監督人ハ其監督ノ結果ニ依リ後見人ノ管理上ノ不能又ハ不正實ノ事跡ヲ
發見シタマニ當其公直セ相当の處置ヲ爲サヌベヘカラハ監督セム又ハ衣
第二、被後見人ノ缺ケタル場合ニ於テ遺贈ナク其後任者ノ職務ニ就ク其時押促
シ若シ後任者ナキトキム親族會ヲ招集シテ其選任ヲ爲シジタルコトハ組合ニ
後見人ト被後見人ノ事務ヲ監督スルヨリセハビテ(添此一六章又餘見人ノ餘見

が失ルトキハ被後見人ハ其法定代理人ナフ法律上ソ保護ヲ受ケアルカ故未蒙見監督人ハ後見人カ死亡シ或黄格ヲ失セ又ハ辭任シテ爲ニ等ニク快ウザル場合ニ於ニ之ニ代ムルベキ法定若シハ指定後見人アルトキハ過滞ナフ之ニ其就任モ促シ若シ又法定後見人ナキ時キハ親族會ヲ招集シフ之ヲ選任セシメツルヘカラム准洋人ハ其證書ニ結果ニ堪ミ及異人ハ管轄上ヘ不正確ノ事例第三種急迫ノ事情アリ場合ニ於ニ必要ナル處分ヲ爲スコト等諸國共見後見ノ事務を後見人之ヲ行ヒ後見監督人ハ之ヲ行ハナルヲ常トスレドモ後見人カ更迭シ後任者カ未タ就任セザルカ如キ場合ニ於ニ急ヲ要スル事務アルトアリ例ヘハ被後見人カ訴訟ノ當事者ノ一方ニシテ上訴其他急ニ爲サナルヘカラナル訴訟行為ヲ爲スニ當リ後任者ノ就任ヲ待ツトキハ失權利ヲ生スル如キ場合ニ於アハ後見監督人ハ被後見人ナメ自ラ適當ノ處分ヲ爲サナルヘカラス又風水害ニ遇ヒオ家屋ノ破損シタルカ如キ場合ニ於ニ急迫ニ其態急工事ヲ施サナレハ被後見人ノ不利益タル場合ニ如キモ亦後見監督人ハ自ラ必要ナム處分ヲ爲サナルヘカラス而シテ後見監督人カ此處分ヲ爲スハ後見人ナ快

證書人作成ヲ必要ルヌル時其備成人手數料春價還利極ニ極ハ當然大失又價還利請求ヲ承認付私ノ通知ヲ要有候ス關係此等入費居入價還利以實價則斯當然人等トス茲固其他外費用計トハ拒絕證書作成余費用未包含ニ得也但論理其外ト限先其費用以外の費用ナム如ナム此外費用又無含ス未支給未本領利廣義ニ解シ如何ナル費用又無包含ス然而人ト論ナム是ニ別裏得有一據之法律ノ用語トシ乞甚能大文字ハ拒絕證書作成ニ關ニ又其價還利求ニ要要ナム所關係則有各ル所取金利ニ限然モ安ト解ナシ他例ナキ者ニ隨ナ其他人費用中者ハ拒絶證書作成有費居通知大費用第略百加十一條第二項ニ場合は於氣体爲替相場類似シカ爲メナキ要ス此費用春價還利包含スル時モ價還利請求者ナム價還利務者三對シテ提起權利但署證書又無引受人相對立者起訟名之訴訟費用今期ナム包含士木工政財政事務上出資取締議會ハ泰四百六十六號四百六十二號前款該子問題ナムハ泰四百九十二號第其項第二號ニ提報證書係成ハ手數料皆セシム引受拒絶證書作成ハ手數料又包含ス然モ價還利請求者ナム價還利務者三對シテ提起權利但署證書又無引受人相對立者起訟名之訴訟費用今期ナム包含士木工政財政事務上出資取締議會ハ泰四百六十六號四百六十二號前款

償還請求權ニハ何等ノ關係ナキ事外國又は之ヲ作成セラレバ償還請求權ヲ
喪失スルモノ不アアチ後者ノ場合ニ於テ六引受拒絶證書ハ第四百六十六條第四百六十七條第
一項第二項並ニ第四百七十二條ノ規定ニハ所ガリ然レハ第一種類ノ引受拒
絶證書ニ付テハ其手紙料ニ勿論費用ヲ償還セムル時此額得大過ヘ當該證書
償還金額ハ第四百九十一條第一項第一號及ニ第二號ノ以カ定ハ同様モ償還請
求者ノ償還金額ノ支拂ヲ受ケ公平ニ賠償スル時十分ニ償還未實ヲ舉クルトリ
外ニ在外ノ場合ニハ償還金額ノ半額ヲ賠償スル時十分ニ償還未實ヲ舉クルトリ
者ニ此缺點ヲ補充シ償還権利者外シノ支拂テ得ナシ日支拂地ニ於テ即時ニ
償還ヲ得タルト同一之狀況ニ在テシヌシガ爲スニ第四百九十一條第二項ノ規
定ヲ設ケタリ本項ノ規定ニ依レハ償還人請求未受領者ノ住所地ガ支拂地ト
異ナル場合ニハ支拂地ヨリ償還人請求ヲ受領候者ノ住所地ニ宛テ提出シダル

一覽拂ノ爲替手形ヲ相場ニ依リテ第一項ニ定メタル金額ヲ計算ニ若シ支拂地
ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受タル者ノ住所地ニ最モ近キ地ニ宛テ
振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ其金額ヲ計算ス即テ本項ノ規定
ニ依リテ第四百九十一條第一項ニ定メタル金額ハ變動ヲ生スモノナキニ例良ハ
第四百九十一條第一項ニ依リ定マリタク金額ヲ金千圓トシ而シテ支拂地ヨリ
償還義務者ノ住所地ニ宛フタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ類面百圓ニ對シ百
二圓ナリト假定ス此場合ニハ結局償還請求金額ハ金千二十圓即テ千圓ノ百分
ノ百二十ト爲ル之ニ反シテ相場カ額面以下ナル場合ニハ其計算ハ例金吉一覽拂
ノ手形ニ付テ其相場九十八圓ナル場合ニハ償還請求金千圓ニ對シテハ第四百
九十二條第一項ニ依リ算出シタル實際償還金額ハ千二十圓ノ九十八分ノ四十
ト爲ル即テ其算出方法ハ百分ノ九十八ヲ以テ千圓ヲ除シタルモ既ムナラタム
カラズセシム又モ其相場九十八圓ナル場合ニハ償還請求金千圓ニ對シテハ第四百
九十二條第一項ニ依リ算出シタル實際償還金額ハ千二十圓ノ九十八分ノ四十
ト爲ル即テ其算出方法ハ百分ノ九十八ヲ以テ千圓ヲ除シタルモ既ムナラタム

一覽拂ノ爲替手形ヲ相場ニ依リテ第一項ニ定メタル金額ヲ計算ニ若シ支拂地
ニ於テ其相場ナキトキハ償還ノ請求ヲ受タル者ノ住所地ニ最モ近キ地ニ宛テ
振出シタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ依リテ其金額ヲ計算ス即テ本項ノ規定
ニ依リテ第四百九十一條第一項ニ定メタル金額ハ變動ヲ生スモノナキニ例良ハ
第四百九十一條第一項ニ依リ定マリタク金額ヲ金千圓トシ而シテ支拂地ヨリ
償還義務者ノ住所地ニ宛フタル一覽拂ノ爲替手形ノ相場ニ類面百圓ニ對シ百
二圓ナリト假定ス此場合ニハ結局償還請求金額ハ金千二十圓即テ千圓ノ百分
ノ百二十ト爲ル之ニ反シテ相場カ額面以下ナル場合ニハ其計算ハ例金吉一覽拂
ノ手形ニ付テ其相場九十八圓ナル場合ニハ償還請求金千圓ニ對シテハ第四百
九十二條第一項ニ依リ算出シタル實際償還金額ハ千二十圓ノ九十八分ノ四十
ト爲ル即テ其算出方法ハ百分ノ九十八ヲ以テ千圓ヲ除シタルモ既ムナラタム
カラズセシム又モ其相場九十八圓ナル場合ニハ償還請求金千圓ニ對シテハ第四百
九十二條第一項ニ依リ算出シタル實際償還金額ハ千二十圓ノ九十八分ノ四十
ト爲ル即テ其算出方法ハ百分ノ九十八ヲ以テ千圓ヲ除シタルモ既ムナラタム

所持人ニ對シテ償還ヲ爲シタル裏書人又ハ裏書人ニ對シテ償還ヲ爲シタル裏書人ハ勿論後者ヨリ信還請求ノ通知ヲ受ケタル裏書人ハ其前者ニ對シテ償還ヲ請求ヲ爲スコトヲ得其請求ヲ爲スニ付テハ裏書人ハ償還ヲ爲シメントスル者ニ對シ自己房庫知フ受クタル旨ノ翌日モテ應付借還請求ノ通知ヲ發スル旨ヲ要文(第四八八條參照)審前當火カ受次公私借還金額と第四百九十六條ヲ以テ之ヲ定メタリ其時慶武十八回ゼヤ其合ニヘ當該請求金半額ニ揮ミセハ深四百(一)百其支拂ヒタル金額及ヒ支拂ヒ爾以後ノ法定利息ヘ勘定拂へ既裏書人算出特異ニ對シテ償還ヲ爲シタル性キハ第四百九十一條第二項註明シタル登載云其支拂セタガ金額ニシテ若レ又此裏書人ノ住所地ニ支拂拂取算出ノ事例第四百九十一條第三項ノ規定並依リ算出シタル金額の即チ支拂ヒ交済金額ト爲シ此金額ニ對シテ支拂ヒ由ヨリ信還ヲ爲ス百零四ノ年六月ナラ利子ヲ算計シタルセシハ却乎第百九十二條第一項第二項第二號セ金額ナシ後三此鷹谷屋又其金額ノ利息ニ對シテ更ニ利息ヲ附タルモ結果ヲ生ヌ問題ニ成ニ既ナ無モ斯ニ

(二)賣其支拂セタル費用及裏書人カ償還ヲ請求スルニ付テ又信還請求ノ追跡ヲ

換スル時トテ要ス後ニ涉クト開拵費用ハ信還セシムルコトヲ得ナメヘカラス】
償還請求ヲ受取タル前書参照所地ニ信還ヲ請求又是裏書人ノ住所地共同甚チ
ル場合正ム以至述へ少ル(一)(二)ノ金額以合算スル毎沐テ以テ足ルト誰者然其
住所地易異ナガ場合其右(一)(二)ノ金額ハ償還ヲ請求スル裏書人ノ住所地ヨリ
償還ノ請求ヲ受クル前者ノ住所地ニ宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ
依リテ變動ヲ來ヌ事下情第百九十一條第二項ニ付テ説明シ候解如茲(第
四九二條第二項)謀ア謀出勝入勘詰達致辭拂書付與ナシ候事有ヒ(第
四九三條)金額を受ムハ前ハ金額又是裏書人ノ住所地ノ相場ニ付テ
其十五年前日武田北山正義御名前此裏書人ノ住所地ノ相場ニ付テ第百九十二條
償還ヲ爲スニ以爲替手形支拂拒絶證書及ヒ信還計算書ト引換シ非是ノ事類ノ
爲スコトヲ要セズ又信還ヲ爲要者ム之ヲ受タル者ラジテ信還計算書並信還大
受ケタル旨ヲ記載セシム之三署名セシムル旨トア得要スバ此總テ此等契約規定
ハ信還ヲ爲ス者ブシナビニ重ノ信還ヲ爲スノ處フ免レシメンカ爲メナリ(第
四九五條)

手形法へ第四百九十一條、第四百九十二條又以手て般ノ償還請求ヲ依テ規定シ
爲シタリト雖ニ尚キ此規定ノ以參スルモ支拂又爲支拂又者曰支拂地主者又
即時ニ償還ヲ受クタルト全然同一ノ状況ニ立タルシカドヨト可得不是ヒ第四百
九十三條、第四百九十四條ノ規定ヲ以テ第四百九十一條第一項、第四百九十二條
第一項ノ金額ヲ受クルニ足ルヘキ金額ヲ以テ手形金額トシ償還義務者ヲ支拂
人トシタル爲替手形ヲ振出ノ權利ヲ償還権利者ニ付與シ時及ヒ地ノ差異ヨ
リ生スル償還又不公平ヲ補之方法ヲ設ケタル所謂戻爲替手形ノ制度即ち是ガ
手形ノ種類也。即ち手形ノ金額又其償還請求又其の権利を有する者又は手形ノ
第一款戻爲替手形ノ要件等(註)、並びに其の権利を有する者又は手形ノ
戻爲替手形モ亦一ノ爲替手形ナガル以テ一般ノ爲替手形ニ要スル條件ヲ備エ
ナルヘカラス然レトキ元來償還請求ノ方法ナガルノ振出スモノ力用ノ以列其要
件ノ内容ニ付テハ自ラ多少ノ制限アリヘン。但シ其の権利を有する者又は手形ノ
第一款戻爲替手形ノ要件等(註)、並びに其の権利を有する者又は手形ノ

(一) 戻爲替手形ノ金額ノ商法ノ戻爲替手形ノ金額又付テハ何等ノ規定ナシト
雖キ元來此手形ハ償還請求ノ方法トシテ振出スモノナルヲ以テ其金額ハ自ラ
第四百九十一條及ヒ第四百九十二條ノ規定ニ依リテ定マラタルヘカラス即チ
所持人カ振出ス戻爲替手形ノ金額ハ第四百九十三條第一項ノ規定ニ依リテ定
マル唯茲ニ注意スヘキハ戻爲替手形ヲ振出ス場合ニハ所謂費用中ニハ手形ノ
仲買手數料並ニ其振出ノ費用等ヲ包含ス而シテ此等合算ノ金額ハ所持人カ償
還ヲ請求タル場合ニ本手形ノ支拂地ヨリ戻還ノ請求ヲ受クル者ノ住所地ニ
宛テ振出シタル一覽拂爲替手形ノ相場ニ依リ又裏書人カ償還ヲ請求スル場合
ニハ其住所地ヨリ戻還請求ヲ受クル者ノ住所地ニ宛テ振出シタル一覽拂爲替
手形ノ相場ニ依リ更變動リ生來例ニ成第百九十二條第一項ニ依リテ定マ
ルノ金額ハ合計金千圓ナルニ爲替相場ニ百圓三付セ金九十八圓ナル事ニ於
テ所持人ハ半圓又九半八分ノ百圓相當ナル金額御ナ千二十圓九十九分ノ四付
ツ以テ戻爲替手形ノ金額ト爲ナラムヘカラス故ニ此場合ニハ戻還義務者ノ戻戻
拂手形額期日高於半千ニ百圓九十九分ノ四付ナラム之延後シ少焉

替相場 次相而陳或高燒場合于三尺爲替手形丈金額を第四百九十二條第一項及

セ第百四百九十二條第一項及依ナタ定マリタ金額及以ナ直ナ替手形金額及
ス相手人ヲ得ナ此場合代々償還の請求又爲借入手形ナシ又爲借入手形金額及
四百九十二條第一項及及第百四百九十二條第一項及依ナタ定マリタ金額及以ナ直ナ替
多金額ヲ得ナ至燃面難手償還義務者當結局其手形迄滿期日於ナ第
百九十二條第一項及第百四百九十二條第一項及依ナタ定マリタ金額ヲ支拂付
過ナ出必失城ニ賣出候年期ナ限ニ及ナ又裏書人ナ預託及請求及
(二) 屢爲替手形合支拂人及支拂人並此手形ナ支拂人ナ償還權利者ナ付
名前年奉手形ノ貰義者(第百九十三條而ナ此手形ナ支拂人ナ償還權利者ナ付
ヘキ御見ナ當然ナリナハ見義替手形ナ支拂人ナ付此手形ナ支拂人ナ償還權利者ナ付
(三) 替反爲替手形合支拂地ナ償還不請求義者之原者居住所地ナ以
本例百上不要義第百九十四條第一項及之償還乞償還請求受ナク者ナ住所地ナ
於ナ本來爲支拂ムナ題旨未伴ナル規定要則ナリ次承起因夫其金拂人自大
(四) 民爲替手形又振出地而此振出地替手形合本爲替手形ノ

支拂地ヲ以ナ振出地ナ定ナルコトヲ要ス第百九十四條第一項及之同條第一項ナ

支拂地ニ關メル規定ト相備テナラ爲替相場ナ定ナルニ必要ナレバナリ替手形合

(五) 呉爲替手形ノ滿期日ナ此手形ノ滿期日ヘ一覽ナ日タクコトヲ要ス第百九
四條第一項此以外ノ滿期日ナ定メタル辰爲替手形ハ吳爲替手形タルコトヲ得
ス是レ成ルヘク吳爲替手形ノ金額ヲ少カラシムノ必要ナリ出ナダセウムノ
シナ償還義者ノ負擔ヲ輕カラシムノ趣旨ナリ蓋シ手形ノ割引歩合ナリ賃拂
ノ手形ヲ以ナ最モ割安トスルモノナレハナリ支拂人ナ其手形ナ賃拂及支拂
第二 吳爲替手形ヲ以ナスル償還請求權ノ行使、吾斯底年期起ナ支拂人ナ
ノ認メタル義務ナルナリ以ナ即ナ其手形ヲ支拂フヘキ手形法上ノ義務ヲ負フミ
ノト置クナルヘカラヌ替手形ノ支拂人ナリ又後替手形、支拂人ナリ以ナ
支拂人ナリ爲替手形ヲ支拂フミハ吳爲替手形、今爲替手形支拂抵避也及ビ

遣計算書ト引換ニ非才支拂ハ支拂ヲ爲不至トフ要セキ事例四八二三號第一項第四九

五條第一項貰シ戻爲替手形ノ支拂ナルモノハ又爲替手形ノ支拂ナル以テ爲替手形ノ支拂モ闇スルノ般規定ノ通用ヲ受ケルノ外同時ニ其支拂大爲償還義務ノ履行ナルヲ以テ般ノ償還ノ實行ニ關スル規定ノ通用ヲ受ケルハ當然ナレハナリ故ニ此等ノ理由ニ由リ戻爲替手形ノ支拂ヲ爲次者ハ所持人アシテ爲替手形ニ其支拂ヲ受ケタル旨ヲ記載セシム且之ニ署名セシムルコトヲ得第四八三條第二項第四九五條第二項然ルニ若シ戻爲替手形カ手形法ニ定メタル要件ヲ具備セタベドキハ償還義務者タル新手形ノ支拂人ハ其手形ニ對シテ支拂ヲ爲エヘキ義務ヲ負ハス何トナレハ償還權利者ハ戻爲替手形ノ方法ニ依リ償還請求スルニ必ハ手形法ニ規定スル所ノ戻爲替手形ニ關スル要件ヲ具備シタル手形ヲ振出シテノミ請求シ得ベニ過キス随テ若シ其要件ヲ具備セナルキハ其手形ハ償還請求權行使ノ爲ニ振出サレダル手形ト看ルコトヲ特テ唯當通ノ手形ト看ルルニ過キスシテ本爲替手形ト手形上ノ義務ニ付フ何等ノ關係ヲ有セサ出ル事無レバナリ故ニ此場合ニ於シ其支拂大が支拂ワ爲ザダガト

キハ新手形ノ所持人ハ本爲替手形ノ償還請求者即チ新手形ノ振出人マテハ過リテ新手形ニ基キタル償還請求權ヲ行使スルコトヲ得ヘント雖モ本爲替手形ニ依據シテ本爲替手形ノ償還義務者タル新手形ノ支拂人ニ對然償還ヲ請求スルコトヲ得ス然レヨモ戻爲替手形カ法定ノ要件ヲ具備セシ場合ニ若シ其新手形カ支拂ハセナリシモ戻爲替手形ノ振出人ハ戻爲替手形ノ金額ヲ其振出ノ費用及ヒ爲替相場等ノ値ノ如何ニ勝大カギニ至ルト雖玉其金額ヲ以テ本爲替手形金額ヲ基本ニシ戻爲替手形ニ支拂人タル本爲替手形ノ償還義務者シテ償還請求權ヲ行使スルニト得戻爲替手形ノ受取人以下ノ所持者ハ本爲替手形ニ支拂拒絶證書及ト償還計算書アリ且本爲替手形ノ讓渡人然ニトナ希ニ爲替手形ニ依リテ明カナル場合ニ於オハ前示述ヘテ然戻爲替手形ノ振出人ト同様ノ償還請求權ヲ行使スルニト得戻爲替手形ニ支拂ノ得カバ場合ニ手形ノ信屋ノ

第二節 手形ノ參加

手形ノ引受 クオレガルトキ又ハ豫期シタル支拂不得カバ場合ニ手形ノ信屋ノ

之ヲ維持スルコトヲ得ヌ此ノ如キ場合ニシテ就済スルノ方法トシテ前ニ述べタル如ク擔保請求ト償還請求ノ方法ヲ設ケタリ然レトモ擔保又ヘ償還ノ方法ニ依頼スルハ費用ヲ要スルノミナラス又手數ニシテ煩雜ナリトス故ニ此不便ヲ除去セシカ爲メニ一層簡便ノ方法トシテ手形ノ參加ナル制度ヲ設ケタルモノニシテ參加ナル者ハ擔保ノ請求又ヘ償還請求ノ事情カ發生シテ開場合ニ於テ此等ノ事情ヲ迅速ニ打消シ手形ノ借用ヲ維持シ其圓溝ナル行動ヲ開ルカ爲メニ元來引受又ヘ支拂ヲ爲シテヨリ義務ヲ有セサル第三者カ手形開保人介入シテ手形ヲ引受又ヘ支拂ヲ爲シテ請フ妻スルニ手形ヲ參加シ又手形ヲ變調ニ於ケルノ法律上ノ制度ナリ而シテ此參加ニ二種アリニ其數額を增加シタルヘキ者ヲ指定スルモラ即チ機備支拂入ヲ指定スルモニシテ三國兼メ機備支拂入タルヘキ者ヲ指定セスシテ參加ノ事情カ發起シタル場合ニ始テ手形開保ニ現ハルルモノ即チ是ナリ此第三種ヲモハ本所謂純然タル追加訴訟又補充訴訟也

第一款 豊備支拂人

第五百條ノ規定ニ依レハ爲替手形ニ豊備支拂人ヲ記載ケル場合ニハ機合支拂人カ引受ヲ拒絶シタル場合ト雖モ所持人ハ直ちに前者ニ對シテ豊備支拂人ヲ請求スルコトヲ得ス必ス先ツ豫備支拂人ハ引受ヲ求メ其豫備支拂人カ引受ヲ拒絶タル後ニ非ナレハ前者ニ對シテ豊備支拂人ヲ請求スルコトヲ得ス蓋シ其豫備支拂人ヲ設ケタル所以ハ若シ擔保請求ノ事情カ發生シタル場合ニ成ルヘク普通ノ擔保請求ノ手續ニ依ラスシテ豫メ手形ニ記載シタル特定ノ人ニ依頼シテ擔保ノ事情ヲ打消スノ起意ナリ故ニ苟キ豫備支拂人ハツ設ケタル以上ニ豫備支拂人ニ對シテ豊備支拂人カ引受ヲ拒絶シタル事ハ拒絶證書ニ依リ得ス豫備支拂人ハ擔保ノ事情カ發生シタル場合ニ始メテ其效用ヲ現ハスモノナルヲ以テ支拂人ノ引受拒絶アリタル後ニ非ナレヘ豊備支拂人ニ對シテ豊備支拂人ヲ求ムルコトヲ得ス而シテ其支拂人カ引受ヲ拒絶シタル事ハ拒絶證書ニ依リテノミ最モ確實ニ證明キラルモシナルカ以テ所持人ハ拒絶證書ヲ示シテ豫備支拂人ノ引受ヲ求メサルヘカラス第五百條ニ「爲替手形ノ所持人カ引受ヲ拒絶證書ヲ作ラシメタル場合ニ於テ云云ト規定シタル」即チ此趣旨ナリ

豫備支拂人ノ支拂手付ヲハ第五百八條ノ以テ之ノ規定セリ此支拂手付ヲモ豫備支拂人ハ信還請求ノ事情アル場合ニ於テ始メテ效用アビセナリ此場合ニ所持人カ支拂拒絶證書ヲ作成セシメタル後ニ非但人ノ豫備支拂人ノ支拂ヲ求ムルコトヲ得ス若シ豫備支拂人ノ設定シアル浮形ニ他ノ参加引受合ノ者トキハ此者ハ手形上ノ支拂義務ヲ負擔スル者ナシヲ以テ豫備オノ豫備支拂人ニモ参加引受人ハ先ツ第一手形金額ヲ支拂フニキ義務ヲ負擔セシムトナリヲ以テ所持人ハ先ツ此參加引受人ニ對シノ支拂ヲ求モカ然ヘキ矣若シ參加引受人カ支拂ヲ拒ムカ又ハ全ク參加引受人ナキ場合ニ於テ始メテ豫備支拂人ニ對シテ支拂ヲ請求スルトヨリ得能ラ此等ノ支拂請求大満期日又ハ其後二月以内ニ爲スコトヲ要ス(第五〇八條第一項)其間ニ及ムハ勿論此種證書以上述ヘタル支拂ノ請求ヲ爲ス時尙未所持人カ支拂ヲ得ズミ此度而始滿次前證書ヲ以テ参加引受人又ハ豫備支拂人カ支拂ヲ爲滿次リ當ニモ此證明無能セバカ也(第五〇八條第二項)若ギ右ノ手續ヲ怠リタ所生キヤ所持人ハ豫備支拂

人ヲ指定シタル者又ハ被参加人及び其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失ツ(第五〇八條第三項)
○八條第三項
〔商事簡潔ニ極シ〕
豫備支拂人ノ設定要件ヲ認明ズヘシセハ一端ノ原要マ本段セリイナヘ
今左ニ豫備支拂人ノ支拂地ニ於ケル者ナラムヘカラス支拂地ニ在ラナル者ヲ以テ
豫備支拂人ヲ指定スルトヨリ得ス自即ヘ豫備ノ制限ヲ當減シテニ至リ
豫備支拂人ヲ設定スル人ハ替手形ノ提出人及ヒ裏書人ニシテ支拂人ハ之ヲ
設定スルコトヲ得ス(第四八條第四五八條)
豫備支拂人ニ付ナハ支拂人ヲ除クノ外何等ノ制限ナシシテ其頃ノ開帳
ノ期間ナリ替手形
第二款 參加引受
〔商事簡潔ニ極シ〕
豫備支拂人ニ付ナハ支拂人ヲ除クノ外何等ノ制限ナシシテ其頃ノ開帳
ノ期間ナリ替手形
第三款 參加引受ノ性質
〔商事簡潔ニ極シ〕

参加引受トハ手形ノ支拂人カ引受ヲ拒絶シタル場合ニ第三者カ手形關係中ニ
介入ジテ支拂人ニ代サテ引受ヲ爲シ若シ支拂人カ明仕日翌ニ支拂ヲ爲ナサシ
シテギハ自ラ之ヲ支拂スルキ義務ヲ負擔スベキ意思表示ヲ手形上ニ爲スシ謂
チハ自ラ之ヲ支拂スル

ノ故ニ其目的ハ擔保ノ責任ヲ全然消滅セシムル在リ、其意思表示之形式並
後ニ述フバカ如ク普通引受ノ形式と同一才致ト雖ニ其目的や擔保義務ノ發生
ヲ防ヘバ在リテ其支拂義務や普通ノ支拂義務ト異ナリ支拂人カ支拂ハサセト
キハ自ラ之ヲ支拂フヘントノ條件附ノ手形義務ナリ

参加引受ニ付テモ手形法ハ一部ノ引受又ハ制限附ノ引受ヲ認ムルヤ否ヤハ一

ノ疑問ナリ若シ参加引受ハ引受ト同一性質ノモノナリトノ前提ヲ採ルトキハ
直ナニ引受ニ關スル規定又援用シテ一部ノ参加引受ハ有效テシテ其他ノ制限
附引受ハ無効ナリト解セタルヘカラス然レドモ参加引受ヲ認メタル法律ノ趣
旨ヨリ者ズベハ普通ノ制限附ノ引受ハ勿論一部ノ参加引受モ到底無効ナリト
解ハサカルヘカラス蓋シ参加引受ノ目的ハ擔保ノ條件ヲ消滅セシムルニ在リテ
成ヘタ手形ノ所持人タシテ本來ノ支拂人カ完全ナル引受ヲ爲シタルト同一
人狀況ニ在ランムモノナリセナリ然ルニ若シ一部ノ引受ヲ有效ナリトセハ
其殘部ニ付テハ尙ホ前者ニ對シテ擔保ヲ請求スルノ必要アリ此殘部ヲ前者ニ
請求スルニ付テハ拒絶證書ヲ作成セシム又ハ通知ヲ發シテ等ノ手續ヲ爲シテ

ルベヌテ不果トテ然ラ担保人條件ヲ消滅セシメンカ爲メニ設ケタル參加ノ

制度や何等ノ效用ヲ充たさずト相持丈ノ起居所ノ致テ都ノ參加引受付到底
無效ナリト解セ考ル而亦然ベキモ唯支拂人専前未無也即ち引受又爲然
其残餘ヲ恐る泰加引受爲事場合未だ擔保者事情ハ全然之更爲之ニ消滅セ
テ以テ此場合にて有效ナリ上級要不だ擔保條件ヲ全然消滅直シノ得ク参加
引受ハ有效ニシテ其他ノ參加引受ハ無効立上級之手形法ノ規範ニ付テ是
ガニ參加引受人ハ所謂支拂人ニ非考ノ外ノ參御別受亦付テ付才又直才ノ第期
百六十九條ノ規定ヲ援用スル是既往之又第五百六條ノ參御別受ハ效力有
セテ全然擔保請求權ヲ消滅セシムノ趣旨ヲ明觀ノ事明次第又ハ餘人ニ委嘱付
セテ被請文財人ニ付セテ是既往之又第五百六條ノ參御別受ハ效力有
第一項 所持人ノ選擇權
第一項 所持人ノ選擇權
第一項 所持人ノ選擇權
第一項 所持人ノ選擇權
普通ノ引受ニ在リテ所持人ハ之ヲ拒キ既往之又第五百六條ノ參御別受ハ效力有
所持人ハ之ヲ拒キ既往之又第五百六條ノ參御別受ハ效力有
普通ノ引受ニ在リテ所持人ハ之ヲ拒キ既往之又第五百六條ノ參御別受ハ效力有
所持人ハ之ヲ拒キ既往之又第五百六條ノ參御別受ハ效力有

信用如何ニ拘らず、逃スシモ之ヲ承諾タルニカラアル理由ナリ。然レバモ唯擔保支拂入ノ参加引受也。至テ玄觀タ打消ヲ謀ル爲業ニ難以博采手形ニ指定期日モノナルヲ以テ之ヲシテ自由ニ拒ムコトヲ得ルモノトスルトキハ全ク豫備支拂人ヲ設定シタル手形法ノ趣旨ヲ無視スルニ至レハナリ。(第五〇一條) 參加引受ナルモシテ多數發生スルシテ、例案ハ甲狀振出人ノ爲ニ参加引受ヲ爲シ乙シ受取人ソメシ。参加引受ヲ爲シ丙申第ニラ裏書人ノ爲ニシテ参加引受ヲ爲シカ如シ斯ル場合ニハ所持人ハ自己メ選擇シ從セ何シカノ一人ツレナ参加引受ヲ爲テシムルヨリテ、得ヘ表第五〇二條手形ノ信用ヲ維持スル點モヲ觀レム。参加引受人ソメ多キム益、手形ノ信用ヲ大ナラシムル旁如シト雖モ一方ヨリ言ヘバ、参加引受ヲ得ルニハ引受拒絕證書リテ、参加引受人ニ呈示シテ参加引受ナリタル旨ヲ記載セシミナルベカラズ、多數ノ参加引受人アル場合ハ悉タ之ヲ許容セザルヘカラストセシム。所持人ハ其類ニ堪ヘアルヘテ事リ信用ノナル一人ヲ選定ヌルヲ輕便カル也。若カサルナリ。

第三項 參加引受ノ方式

參加引受ノ方式ハ、參加引受ノ旨ヲ手形ニ記載シテ、參加引受人之モ署名ヲ附セ。在リ(第五〇三條第一項)又普通ノ引受ト異ナリ。點ハ普通ノ引受モ後附テ、引受人ノ署名ノミノ引受ヲ認ムト雖モ、參加引受ニ在リテ、參加引受人ノ單純力能ニ認メス而シテ普通ニ參加引受ヲ爲スニ、餘人ノ爲ニシテ、參加引受ノ此之ヲ爲スモ、ナリト雖モ、時トシカヘ何人有爲メテ、スルナフ。規定セシムテ、參加引受ヲ爲スヨトアリ。此場合ニ於テ、其參加引受人ノ振出人ノ爲メニ之ヲ爲シタルモト、看做ス蓋シ振出人ノ爲メニ、爲シタル參加引受ニ最重多數ノ擔保義務ヲ免レシムル事ナリ。第五〇三條第二項、第三項、第四項所持人ノ參加引受ヲ得タルトキハ、引受拒絕證書ニ參加引受アリタル旨ヲ記載セシメ、且其證書作成ノ費用ノ支拂ト引換ニ之ヲ、參加引受人ニ交付スルコトヲ算ス。又、參加引受人ハ其拒絕證書ヲ遲滞ナク被參加人ニ交付スルコトヲ要ス。(第五〇四條)

且第五百七條ノ規定ニ從ヒ被參加人カ自己ヲ前者ニ對シ擔保ヲ請求スルト
並備フ爲ナシテナンカ爲メナリ者又其猶文々難處人ニ交替セシモ主事モ認シ
チはも且其遺贈者ナム財物ノ支拂ハシテ之を餘財人ニ交替セシモ主事モ認シ

總持人ニ參照候。第四項 參加引受ノ效力 参加引受ノ效力を參照候。受取人モ主事モ認
悉加引受ノ效力ハ参加引受ノ性質ヨリ當然生ス。ノキモ之類即正左ノ如シ

(一) 支拂人ガ手形金額ヲ支拂ハサリシ場合ガルコトア要ス。普通ノ引受人ハ經費
アラナリシ手形金額及ヒ費用ヲ支拂フノ義務ヲ生ヌ故ニ参加引受人即支拂人
爲スニハ支拂人ガ支拂ヲ爲ササリシ場合ガルコトア要ス。普通ノ引受人ハ經費
のニ支拂ヲ爲ス義務ヲ負フゼメナリド雖モ参加引受人ハ支拂人カ支拂ハシム
シト舉ニ限リ支拂義務ヲ履行要ス。甚著ナリ故ニ所持矣。總督支拂人ガ前ニ
引受人ハササリシトギト難處必其先ウ支拂人ニ手形呈示シテ支拂ヲ求ムツ
然處が多々而亦尙ホ支拂ヲ得ナルトギ始ムテ拒絶證書更作成シシ是參加引受
人ノ支拂ヲ求ムヘキモソナリ。之ヲ要スルニ參加引受人ハ如何ナル場合ニ於テ
モ支拂人ニ先テ支拂ノ請求ヲ受クルコトナシ

所持人ガ參加引受人ノ支拂ヲ求ムルニ付テ極メ大姫期貿利制限ヲ越ク即所
持人ハ滿期日又ハ其後ノ二日以内ニ支拂ヲ求ムル爲ニ爲替手形ヲ參加引受
人ニ呈示セタルヘカラス。若シ此手續ヲ怠ルトキハ參加引受人ハ此義務ヲ免ル
蓋シ參加引受人ノ義務ハ條件附ノ支拂義務ニシテ本末ノ支拂義務ニ非ス故ニ
所持人ノ怠慢ニ拘ハラス。其義務ヲ永ク負ハシム。然モ理由ナシ以五〇
五條ノ文を主支拂人又總督合議ノ支拂ノ數額及本末合議天其餘額又參照
(二) 手形所持人其他ノ被參加人ノ後者ハ擔保ヲ請求ス。經利失又第五〇
條參加引受人ノ擔保ノ條件ヲ消滅セシムル事ノためノ以テ當然ニ此效力ヲ生ム
然レトモ全然總テノ擔保義務ヲ消滅セシムルモノニ非ス。唯被參加人ノ後者ニ
對シテノミ其效力ヲ生スルカリ故ニ被參加人ヲ振出人ニ非支拂以前の擔保請
求權ノ全部ヲ消滅セシム。尚ヨトテ得ス。又ノ參照發給非受ノハ參照支拂人ノ
主之其後者。第三款 參加支拂 通法手形ノ通法ナル行第ニ於ケン後律解 第一九一
三條ノ然處支拂ノ領く始ヒ發給ス。主ノ參照發給非受ノハ參照支拂人ノ主之其後者ニ

参加支拂ハ手形ノ償還請求ノ事情、生々タル場合ニ之ヲ打消シシカ爲メニ第三者ノ爲ス支拂ヲ謂フ故ニ参加ナルモノハ償還ノ事情カ發生シタル後ニ非ずレハ其作用ヲ爲サナルモノナリ隨テ手形ノ支拂人カ満期日ニ至リ支拂ヲ爲ナルトキ或於テ支拂拒絕證書ヲ作成セシメタル後ニ非サレハ参加支拂ナルモテナシ又參加支拂ノ目的ハ償還ノ事情ヲ全タ打消シキ在ルヲ以テ此目的ヲ達セサル所ノ參加支拂ハ無効ナリト謂ハサルヘカラズ故ニ普通之支拂ニ於テか所持人ハ一部ノ支拂ヲ拒ムトヲ得スト雖モ參加支拂ニ於テハ兩部人参加支拂ノ爲メニ尙ホ償還事情ノ一部カ残ルカ如其場合ニハ之ヲ拒絶スベコトヲ微ヘシ然レトモ支拂人カ既ニ一部ノ支拂ヲ爲シタル場合ニ於テ其殘餘ノ全部ノ參加支拂ヲ爲ニ場合ニハ結局償還ノ事情ハ全然消滅スベキヲ以テ此場合ヲ限リ一部ノ參加支拂ハ有效ナリ(本支拂證書ニ本來之支拂證書を添付)第一項 參加支拂ニ關スル所持人ノ義務

(一) 所持人が參加支拂ヲ受タル義務ヲ有ス(第五〇九條參加引受ニ付ス)所持

人ハ兼備支拂人以外ノ者ノ參加支拂エドトヲ得シト雖モ參加支拂ニ付スハ何人ノ支拂ト雖モ所持人ハ之ヲ拒ムトキハ被参加人及ヒ其後者ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フ

(二) 所持人ハ參加支拂ヲ爲ナントスル者數人アルトキハ最モ多數ノ者ノ義務ヲ免レシムヘキ參加支拂ヲ受タルコトヲ要ス(第五一〇條參加支拂ヲ爲ス者カ一人ニ止マラヌシテ數人競合スルコトヲ除テ此場合ニハ所持人ハ最モ多數ノ者ラシテ債務ヲ免レシムヘキ效力ナル支拂ヲ受タルコトヲ要ス故ニ引受人ノ爲ニスル參加支拂ハ最モ多クノ者ノ債務ヲ免レシムルモノシナルヲ以テ引受人ト他ノ者トノ間ニ參加支拂ヲ爲ス者アルトキ先づ引受人ノ爲ニスル參加支拂ヲ受ケサルヘカラス又第十一ノ裏書人ト其後ノ裏書人ノ爲ニスル參加支拂人アルトキハ第十二裏書入シ爲スニ決シ參加支拂ヲ受ケサルヘカラス而シテ参加支拂ヲ爲ス者カ參加人漢指定シタル生産ハ第五百七十九條ノ規定ニ依リ其支拂ハ支拂人ナ爲メニ爲シ被後モ少ト有做ス然レトモ參加支拂人カ兼備支拂ヲ爲スハ當リ

所持人ハ兼備支拂人参加引受人ヲ少ト有做ス然レトモ參加支拂人カ兼備支拂人ナ爲メニ爲シ被後モ少ト有做ス然レトモ參加支拂人カ兼備支拂ヲ爲スハ當リ

時天被參加人ヲ示す處に未だ元來不被參加水べ師ニ參照引言と規定シ佛リ定メ
アノ以ニ第五百十條ニ之を除外シタリ註記ニ於ケラモ此處支那人或實業家
以上述大衆ノ所ヲ結合又改キ例程ノ第一ハ裏書人不爲請ナシ済ル參加支拂キ
人又指定セナル參加支拂者又ル後キハ所持人或發票ノ支拂ヲ受ケサルヘ浦ラ
又何ナレハ此支拂ハ即チ支拂人更爲ビニ爲資格ノ評メト看做オルヘ合財
又最モ多數ノ者ヲナシ義務ヲ負セズベキハ參加支拂セ努力ヲ有スル結果參加
ヲ豫備支拂人又ハ參加引受人ノ參加支拂ト雖子此以上ノ債務是免シテ併受
他ノ參加支拂並對シテハ之決讐歩キ支拂ヘニタスニ于支拂人歸
(三)人所持人ハ拒絕證書及上爲替手形ヲ參加支拂人ニ交付シテ是ヲ要領第五
一二使シムハ此處支拂天要多處ニ本多要及源直一〇總理張支拂天教大會
(二)一頭替人ハ此處支拂天教大會大會人ハ此處支拂人ハ此處支拂人ハ此處
又ヨ其餘皆ニ據スル事項ノ參加支拂ノ效力

參加支拂證效力ハ第六所持人ハ支拂ヲ受ク者之因生全形手形上ノ權利失
ク第三被參加人以後者亦復遺請求權又有本異價還請求權ヲ受取ル者トナシ第

三參加支拂人カ明受人被參加人及其前書共對該減半持人固有セ利權利ヲ取
得ハ第五二三條即參加支拂人ハ所持人無代價ノ所持人又有ヘル權利ヲ行使
其所地位ニ就キ者内リ即チ所持人ナシ手形金額及為費用不請求スル旨
ナフ得所少數參加人不請求ニ對ジテハ償還ヲ請求スルコトヲ得

第三節 拒絕證書

イ 証子年月日附註
第三節 拒絕證書
拒絕證書ナシビニ事形上不請求權ナキヨリハ手形未開及ノ種大原則ナリ即大
所持人ヲ勘者ニ對外擔保不請求又ハ償還ヲ請求外ノ而外者ハ原則ト謂ナ必
不拒絕證書ヲ要セ蓋シ此等ノ過及權ヲ行使シムト所持人拒絕證書又備水立點
シ上點ニ達キ其目的ヲ達ス所持人能ハ不然ヒトモ唯例外も然ニ拒絕證書作成
上免除アリ場合ニ其免除者ニ對シテノル不拒絕證書又要セ既シテ期及期要往使
ハコトヲ得セ在利本ノ要無致ニ拒絕證書在利本ノハ一定ノ手形上ノ請求ニ
應本利本ノ關係法定之形式要以ヲ記載シタル書面ニシテ公證人又ハ執達吏カ手手
形所持人ノ請求モ儀ナシ作成手書モノアリ又マ契約スル時キ此款一號既至第

拒绝證書ニ記載ヲ詳項第五百五條四之ヲ規定ス即チ此第一號乃至第七號
ノ事項ヲ記載せシテハ要員モ署名シ又書面ニセモ公證人又ハ裁縫吏又手

第二号公替手形其原本及セ勘定ニ記載シタル事項ヘ一式ヘ手紙上ノ請求ニ
此事項ヘ如何ナル手形ニ關シテ一定ノ請求額爲シシカナ知ルニ付キ必要至
テ其記載ノ方法只必スシモ原文ノ様ニ記載スルヲ必要ナシ原手形が如何ナム
手形タルギテ明示ヌルガト得ルヲ以テ足ル又略寫スヘキ事項ハ原本ニ記
載スル文字ヲ悉ク略寫スルノ必要ナシ手形上ノ權利ニ關係アル引受支拂擔當
保證、擔保支拂又ハ複本ヲ送付先等ニ關スル事項ハ悉ク之ヲ略寫セザルヘカラ
スト體モ手形上ノ權利ニ關係ナキ事項例ヘハ爲替手形ノ番號又ハ其他ノ覺書
等ハ之ヲ略寫スルノ必要ナシ

第二号拒絶者及セ被拒絶者ノ氏名又ハ商號ヲ請求入にて付

拒絶者等ハ請求ニ應セサル者ヲ謂ヒ被拒絶者は謂求ヲ爲シテ拒マレタル者
ヲ謂フ此等ノ者ノ氏名又ハ商號ヘ之ヲ拒絶證書ニ記載セザルヘカラス

第三号拒絶者ニ對シテ爲シタル請求ヲ起旨及セ拒絶者カ其請求ニ應セザリシ

コト又ハ拒絶者ニ而會スルコト能ハサリシ理由ヨリヤハセズ此場合ニ

請求ヲ起旨ハ引受少請求或ヒ可受人破産ノ場合ニ於テ以擔保ノ請求複本遞還
ヲ請求又ハ原產遞還ヲ請求アル事アリテ此等ハ其請求ノ種類ニ依リテハ
權利關係異ナルヲ以テ其如何ナル請求ナリヤフ明カニスルヲ必要トス又拒絶
者カ請求ニ關セサリシゴトセ之ヲ記載スルカドアリ要ズ此他一定ノ請求カ豫期
シタル結果ヲ得ナルコトハ單ニ請求ヲケタル者カ之ニ應セサル場合ノ外請
求者ニ而會スルコト能ハサル場合は起致コトアリテ拒絶者ニ而會スルヨリ不
能ムナル爲シニ請求ヲ目的ヲ達スセヨコト能ヒナルトキ其事由ヲ記載セナル
ヘカラスマリ又而ヒモ間合ハシタル手續未畢ハ未シテイカハ公證人又ハ裁縫吏
第四号前號ノ請求ヲ爲シ又次之ヲ爲メコト能ハサリシ地及ヒ年月日
一定ノ請求ヲ爲スシ付ナハ自ラ地ニ限リアリ例ヘハ支拂ニ關スル請求ハ支拂
地主於テ之ヲ爲ササルヘ方ラタルカ如ジ既ニ請求ヲ爲シ又次之ヲ爲スコト能
スナリシ地ヲ用示スルノ必要アリ又請求ヲ爲スニ當首ヲ一定ノ期限アリ例ヘ
ハ度拂ノ請求ヲ借取時兼拂マ連絡スル事ハ爲メニ當期日又ヒ其後ノ二日以内

ニ開業スル事トテ要件相違此期限又經過後レニ借地請求權又失効ヘキ事以內
請求ヲ爲シ又別之ヲ爲ニ地東北支那某年月日記載スル必開業ナリ開
統五社拒絶者公營業所住所又ニ居所也知財主開場合意於又其地又公營
署ニ開合又爲然シル事モヘ自己與ニ開ヒテリ開ヘハ支那ニ開大ニ前半ヘ支那
拒絶者公營業所既所領セ居所カ知財主セト者ハ基地又公營署又ニ開合又
爲スミトヲ要ス而シテ開合ヲ爲スニ尙ホ知レサルトキハ公證人又ハ執達吏ハ
其役場官署又公營署ニ於テ拒絶證書之作成又レノ後第四回重第第二回故ニ此
等事項明瞭ニ不爾爲メ此ノ如事情皆アツク場合ニ付テ拒絶證書之明記
シテニ此要項セイシイハ單ニ開セマシテノ者セシニ開セマシテノ者合ハシ
第六節法定開場所外ニ於テ拒絶證書を作成トキヤ拒絶者當之ノ承諾外を顧無
シ開開設異ナリ以セ其面ハ少計余ナシマサ開セニシテノ者要ス又詳
第四百四十一江並ノ規定開設ヤハ拒絶證書作成開場所共拒絶者公營業所又若公
營業所開設上開セ其住所又ニ居所元ニ爲開セキ質原則則第ト開業者公營業
者ノ承諾不齊未キ而佈メ場所ニ就キ之ヲ作成スルコトヲ妨ケス故ニ此場合ニ

ハ其承諾シタル旨ヲ拒絶證書ニ記載スルコトヲ要ステ改メ(第四回人土過又其事
前ニ述ヘタル如タ振出人又ニ引受人之支拂地ニ於ク又支拂場所又記載無ナリ
トヲ得ルヲ以テ第四四五條第四七三條參照此場合ニ於ク公營業所支拂拒絶證書ト甚
場所ニ於テ之ヲ作成セラズハタクス然レトニ此場所ノ所謂指定ノ場所ニシテ
第五百十五條第六號ニ規定セル承諾ニ依リ定タル場所ニ非ナルヲ以テ本號
ニ該當セス提ニ若セば該業者公營業所又ニ公營業者公營業者公營業者公營業者
第七ニ参加引受又ニ参加支拂アリタルト者ハ所持人ハ其旨ニ拒絶證書ニ記載セシム
ノ氏名又ハ商號(合資会社等ハ其社員名前亦可)及ニ公營業者公營業者公營業者公營業者
参加引受又ニ参加支拂アリタルト者ハ所持人ハ其旨ニ拒絶證書ニ無致セシム之ヲ
名セシムトヲ要ニ又以上記載ノ要件ヲ具備セカラ拒絶證書ニ無致セシム之ヲ
体リテ借地請求權ヲ行使スルト不得ス(第五百二十六條)

歟人ニ對シテ同一ノ手形ニ偕テ手形上ヲ請求ヲ爲ストキハ其請求ニ付フ一通
ノ拒絶證書ヲ作成セシムルヲ以テ足ル蓋シ手形上ヲ請求ハ一人三對シテ二箇
ノ請求ノミヲ以テ終ルコト稀ナリ例えヘ支拂人支拂擔當者、或拂支拂人及モ無
加引受人其他原本又ハ複本ノ引受ノ爲モノ受寄者等アル場合ニハ重複又ハ連
續シテ此等ノ者ニ對シテ手形上ヲ請求ヲ爲サナルヘカラス然ルニニ新ナル
拒絶證書ヲ作成セシムルニ於テハ作用等ノ費用ヲ増加セシムルヲ以テ事ロー
連フ以テ此等ノ場合ニ應セシムルヲ便利トス(第五一六條)

公證人又ハ執達吏カ拒絶證書ヲ作成シタルトキハ其張清ニ證書ノ全文ヲ記載
スルコトヲ要ス若シ拒絶證書カ滅失シタルトキハ利害關係人ハ其原本ヲ請求
スルコトヲ得尙ホ此磨本ハ原本ト同一ノ效力ヲ有ス(第五二七條)又以テ本證
以上ヲ以テ拒絶證書ニ開タル大體ノ説明ヲ終リタリ尚ほ此言解明ヲ要スヘキ
ハ商法中拒絶證書作成ノ年月日及ト作成ノ場所ヲ以テ此證書併シ年月日
併フ破除スルコト是ナク既ニ述ヘタルカ如ク拒絶證書ノ作成リ付クニ嚴格ナ
ル期間ノ定アルモノアリ例ヘハ支拂拒絶證書ノ作成ノ如シ(第四八七條)又其作

シ外無財産又其有者ノ別除權ヲ喪失ソシ又未交換價ノ因リ者發生財產
賣得金子支拂ヲ目的トスル權利若ク其權利ノ行使ナシ又管財人ノ受取ニ及
ル賣得金子付キ別除權ヲ行使コト未可得ハシニ破產宣告ノ當時ニ於テ共有
關係ヲ現存シテ當初ノ署名轉變無並宣告前ニ於テ既ニ其有財產ノ分割ヲ付
ゲタキノ其當時辨識ヲ受ケタリシ共其有財產ノ分割ナシ破產債權未實
テ之ヲ主張シテ又得利益シ其有關係の消滅ニ因リ共其有者其畫契ヲ與共
ス時又其有者未シ別除權ヲ行使ス在未可得處也然レバ當初之割合過半
於テゾキニテ然ド甚カ多數人學說無反對而而且有效モ成立シタク共其有關係
者ノ破產ノ財產債務者カ破產宣告ア聲タタ自當因ルテ其效力ヲ減縮を蒙ズ
シトナリ又主張シタムト雖未我破產法奉之解釋トシテ之ヲ採用ニ未然セ
何トナリ而破產法第ニ主三條ニ於テ其為財產共有者之上明示シテ者ノ各當主者
又別除權ノ例外制度ナリト以テ其行為代行權關係ハ之ヲ嚴禁ア解釈スルキニシ
ナビハナリ要件共有一關又化制限又有無其有者其有主之別除權ノ主張權
ニ於高管財人外破產者ノ其有財產ノ部分亦應滿其多數者爲之云別除權ノ主張權

之を承認す。賣物代金ヲ受取共、目的事ニテ別除權を有す。被賣者ノ各分類得キ財味
權ヲ行フリニ蒙テ特又營財人ヲ認持外は、相當其處置能チ成立シ。別除權キ二種類
矣。三種類別除權の現行ヲコトア得ヘリ。效力別除權ノ主體ヲ講丁貿易を謂ミ。首
目ヘキ問題別除權の有無ニ關スルが、涉外法の問題是ナリ。別除權ヲ有無及ヒ
別除權者より其權利ノ行使權依サセテ、被賣者ヨリ單獨久シルハ本不楚觀ニ非ナシ。云
被賣者ノ權ニ加シタル事ト、被賣者年吾キム自國ノ被賣法度依リ。次第定ナリ。別
除權ノ原因タル優先權ヲ存吾ハ、涉外私法の原則は、從モテ定ム。故此有體物
ヲ管轄物矣。然亦批當權要權等ノ效力ヲ有無及ヒ。其順位等ノ自物所在地以法
律ニ依リ。拂走ナルヲ據則キシ。權利學目的物等ニ關する權並敷効ヲ苟無後モ其相
位等ニ權利學讓渡。付与。承擔又其法則圖依リ。畢竟ノ要論ヲテ、被賣少權利實
現其自物物タル權利ノ性件附讓被賣算學進ナシ。又併フ拘束地圖ニ關シアム。被
賣者外處ニ關スルノ效力ノ説明リ。參照實價。被賣者。當初ニ於て其本
①言主張文別除權に破產債權。非ナル事以テ別除權者ノ破產事體ニ後シ。シ
テ、其權利等。右ラ被賣者某第ニ。被賣者ヲ別除權者ノ賣權利學目的財人ニ對シ業

判例又用裁例上ニテ、本邦強制法則要則、商法第一〇〇条及他第一項(別除權)
管財人ニ賣シ大志然主張スル制限又斷否別除權ノ目的物皆確義財庫年賃水原
此處於所ニ以大唯管財人ノ該目的物ニ係る營理及財庫分力爲大別除權人有志
而別除權第十九及五條破產法第一四三條。別除權者ノ其權利。管財人。對
外主張果シ。要矣成ス。固余大當然也。但別除權原因多作優先權有目的物
者第三者財庫。財庫ノ處置被賣時。被賣時。固属セガルト。管財三者於被賣者。管財人ニ其財
有財產上又抵當權。設若タルガ如キ。則除權。主張者。財庫大別除權人。別
除權ニ關水ノ破產法通用力。前前項アタメテ。而前テ。被賣權人主張。則大當然也。
管財人。管財人。承認。有無。關大。意思ア裏。參照管財人。管財人。別除權
者ハ管財人。管財人。即除權。此意思ア裏。參照管財人。表示。管財人。別除權
請求。別除權。本別除權。其承認。主張者。財庫大別除權人。別除權人。別
當大財庫。當大財庫。其承認。主張者。財庫大別除權人。主張。則大當然也。
被賣上入期日。被賣手續ノ爲大。其。被賣人。管財人。別除權人。被賣手續ノ
被賣上入期日。被賣手續ノ爲大。其。被賣人。管財人。別除權人。被賣手續ノ爲大。

破産手續上在場日殊ニ債權關係人期付に當て明示的又且標示相繼保有零割又ニ競列主に於テ之ニ主張スル時亦不得管財人之競列外新於ニ主張管財人別除權主承認終タ後其競力ア有ス故ナ言此據有(易辟除權)天競列主ニ反對入管財人別除權ハ承認天競列外新於ニ管財人別除權者失據有上ヲ施テ別除權ヲ主張スルコト下要據然入悉証ナ別除權者ハ別除權天競證セカシ得爾ニ因リ生ハ勿論損害賠償請求スルコト利得ス管財外人主張既次訴訟別除權者又管財人原告トシテ之ヲ提起又破產宣告前ニ於大別除權天競因タル權利主使キ訴訟ハ聲屬獨占ノ如ルトモ管財人主對外又管財人之非謂訴訟受權スルハ依ル大之利爲ス(商法第九八五條第三項民事訴訟法第十七七条)候破產法第六十九條、通破產法(第一二條)シテ別除權ニ關する訴訟相應乎破產手續終結前ニ於大未完結セ管財人別除權者破產手續未完結セ管財人別除權者別除權終結後又別除權者前者ハ場合ニ於大未完結セ管財人別除權者別除權ア以ナ擔保無ヌハ債權者供託後破產手續終結又別除權者別除權

後管財人在訴訟ア執行スルコト要ス蓋シ供託猶久ハ管財人別除權ノ因ル場合ニ於大破產財團トシテ破產債權者ニ配當未ハキムノ例ヒニ止テ後者此場合ニ於大別除權ニ開タル訴訟ア債權者ヨリ既不破產者並對合ノ競證又別除權ニ於大別除權者ノ效果シテシテ別除權ノ目的物若クハ其買得金主開設コトヲ要ス蓋シ競證契約ノ效果シテシテ別除權ノ目的物若クハ其買得金主開設ノ處分權ハ破產者並歸屬シタ所ア以テカラシ別除權又存在ニ存キ申ナシトキ又ハ別除權ノ存在ヲ是認シタル確定判決アリタ國本キ別除權者ハ其権利ア民法競賣法及ヒ民事訴訟法ニ從ヒテ行使スルコトヲ得而シテ別除權者カ民事訴訟法ノ規定ニ從セテ競賣ヲ爲ス無管財人ニ對シ強制執行ノ債務名義ヲ有スルコトヲ要ス(民事訴訟法第五一六條第五五九條、通破產法第二二七條)何處所謂レハ管財人メ別除權ノ目的物ア處分スルコト權限ヲ有スル者ナシカド此訴訟法ノ原因タル權利ニ付ス管財人シテ訴訟及管財人ニ對シ受讓民事訴訟法第一七九條シテ斯ル債務名義ヲ取扱セタルヘ方リム但別除權者又破產宣告前ニ競列主ニ破產者ニ對シ強制執行上ノ債務名義ヲ有シタル場合ニ於大別除權者別除權

者圓體未標開港之管財人並對主ノ銀行支拂受清收力ノ學要之決民事訴訟及訴訟
五十九條何ト専然合併ノ場合ニ於主ノ管財人並同前第壹氏湖玉張告所ノ始々
破產原因ノ債務者ノ形式的代表資格又承繼出久ノ後又更開久不有無者宋ノ才
以利害害然解消去テ主ノエ所下民ノ破產債權者圓體又破產財團右處身權半額
シ破產財久ノ債務者ヲ承繼者ノ承繼者ノ該間體ノ機脚タメ管財人ニ對主ノ銀行
文ヲ受タル要キ(又要主ノ主張又久又別除權者)若破產宣告時於チ既ノ強制
執行手續並開始後主ノ管財人開後破產宣告次ノ終了後再行手續又別除權執行手續
又續行者其事又不得何拒力レ別除權者破產手續モ依循者之次第而行手續
主ノ別除權之承繼ノ強制執行手續又破產手續又開始モ依循者之次第而行手續又
別除權者以別除權又別除權者モ別除權者又別除權者又別除權者又別除權者又
ヒテ得度又易又別除權者又其權利ヨリ主張不能ハ場合は於主ノ管財人之原權
時並且某行使別除權者又別除權者又別除權者又別除權者又別除權者又別除權者又
止界合キ融通却負相應ニ此職務者連帶的管財人モ之モ因又生々生々生々生々生々
害者傳承此職務者資任不然ヒトモ之モ之モ之モ之モ之モ之モ之モ之モ之モ之モ

的物價減價又ルノ職權并列又速斷裁判ノ目的別除權又目的物資權及財權
周天ノ財產ガルヲ殊ノ管財人別除權者ノ利益ア害者別除權者ノ利益ア別除權者有
致主處分外ノ事項者得ヒ次第當然出亦ト受領シ又管財人ノ別除權者ノ行便借
多及別除權者之因別除權者原因ノ別除權者消滅タル場合原否トテ別除權
前者又場合並於別除權者時別除權者本シテ其權利ヲ行使破產法第第三
五條第五號開通破產法第壹九條第三號又管財人請賣得登記別除權者ノ爲破產
供託シ又ノ別除權者主與スル非濟豈供タル者ノ主要別除權者又唯其旨的物
ナ別除權者主は優先的財濟受取ル又權利ヲ有タル者モ此モ以テ別除權又目前物資得
少コト能賣サルノ當然ト別除權者別除權者ノ其類固又別除權者
ヲ第三取得者當對主ノ生張よ成る事又不得向該別除權者大房抵當物ヲ其質物
附本手交換別除權者場合ニ於テ之又如主第壹号別除權者黑鶴湖完善者ア別除權
者又其原因ノ別除權者消滅者歸本手交換者七段以テ別除權又目前物資得又完善者得
處分ヲ爲名古耶務ナシト遠斷者又不勿シ効ク斯ニ職務ヲ行便ラ容易ナ之即
又及算算ノ法津止別除權者以主定リ職務ヲ與之並シ別除權ノ署物即皆然

破産財團ニ屬スル財產物ノ既にテ次ノ例ハ別除權と風憲法ノ権利又属權者
目的物ヲ占有シタルトキ張良旨ヲモ不商法第101条第18條先據て得セシモ破
産法第31条第2條獨逸破産法第17条第18條第19条既目的物ノ提出及主其評價
而承諾之商法第100条第2項破産法第197条獨逸破産法第17条
受戻ニ同意之商法第101条第19條第3號佛國西商法第五四七條既目的物ノ強制賣
却ヲ承認之商法第101条第19條獨逸破産法第17条佛國西商法第547条
七一條第57条既目的物如シ蓋シ届出付別除權之存在ヲ知ラシメ以テ之既處
カ又適當人方法ヲ選定スルコト牙得シシオ評價や目的物ノ價額又知見受戻權
之行使不可無利害又ハ破産財團至歸屬又當賣得金ノ殘額存置セリト又見知
猶未受戻合擔保設定者之権利力有者易ミテ拒絶而上手を得才然而當除權之
又又別除權者其目的物在賣得金上ニ優先的辨済を求ムト得利不可モ過失者
ハニ以テ民事訴訟法第六五六條既目的物ノ後價又付キ異議又申立て無所マ占更得
點ナリ既別除權之目的物ニ關スル處分權又拘束然有の権利者
物の速断判決ヲ下ス勿論管財人之別除權之目的物及換價又付キ異議又申立て無所マ占更得

益セナルベカラス而シテ其事實ノ存在ヲ認ヌタガ事由ハ申請ヲ許可ヘキヤ勿
論ニシテ之ヨ反シテ若ニ執行力アル正本ニ依テ之ヲ認ムトコト起ハシムト而
其申請ヲ却下スヘシ隨テ此場合ニ於テ本業又受訴裁判所ニ訴ヲ提起シテ以
テ其給付ヲ更ニ確定スル大手續ヲ採ルヘ充當否を以申請人ニ委セナベヘカラ
ス因セシムナシマサナリトキ間ヘ度ニ以テ成敗チ然ハシム其誤謬ヘ卒度セシマセ
第三限右述ヘタル條件ノ存在スルニ依リ其提出アリタガ強制執行ノ命令カ實
施セラレ得ヘキモノタル場合ニ於テモ強制執行ヲ開始スルニハ尙ホ左記條件
ノ存在ヲ必要トスニ就ケテ斯くて之ノ上得得權相入該件セ説文書又セ次第
(甲) 強制執行ハ執行法ラルヘモ別判決其他ノ債務名義カ既ニ送達セラセタガカ
又ハ同時ニ送達セラレタモトキ限次之ヲ始ムモトト得ベシ(第五二八條第
一項、第五六〇條)是レ蓋シ執行ヲ受タニキ者フリタ如何カル原因ニ基キ如何カ
メ事項ヲ履行セナル人カ支ナルカリ知ラシム雖ク寧セ任意ニ相手方ニ對取テ
講濟スルコトヲ以テ利益アリスト認ムトキモ否セテ決スルヨリ又得セシモノ方
為メナリ右述ヘタル方如タガルヲ以テ強制執行ヲ受タニキ者カ法律上當然知

・**(乙)**ヘキ所ニ非サル事項及執行文中ニ附加セタル事例ヘシ債権者カ執行人
諸条件ノ成就ヲ證明シタルニ因リ裁判長カ執行力アル正本付與ノ命令ヲ下
シタルコトノ如キハ判決其他ノ債務名義ノ外向セ其執行文ヲ送達シヘシ並ニ
其執行文付與ノ基本ト爲リタル公ノ證明書ノ原本ヲセ送達セリルハカラズ前
五二八條第二項第三項(然レトモ苟無右之送達ノ事實アル事於テ法定ノ條件
(ア)履行シタルモノト謂フヘク其送達方如何カノ目的ニ出タルト(例ヘシ單ル
判決ヲ確定セシメントカ爲メ換言スレハ上訴期間ノ進行ヲ始メシメントカ爲メニ
判決ノ送達アリタルカ如キ其何人ヨリ之ノ爲シタルモヲ問フコトナシ(例ヘシ
裁判所ノ職權ヲ以テ判決ヲ送達シタルト又判決カ當事者ノ就ケイ一方ノ申請
ニ因リ送達セラレタルトハサルカ如キ)然レトモ其送達ハ有效ナルコトヲ
要シ隨フ執行着手ノ後ニ爲シタル送達ハ法定者要件オ完スニ足ラナルヲ以テ
其以前ニ爲シタル執行爲全然效力ヲ生スニ受取済御便手續を終

(乙)其他強制執行ハ正本ニ表示アル日時ノ到来セテソ以前ニ在リテハ之ヲ開始スルコトヲ得ス(第五三九條第七項)又債権者カ其義務ニ屬タル保證ヲ立テシ

ルコトヲ公ノ證明書ヲ以テ證明シ且既ニ送達シ又ハ同時ニ之ヲ送達シタルコ
トヲ證明セサルトキハ之ヲ開始スルコトヲ得ス(第五二九條第二項)隨テ其以前
ニ爲シタル執行行爲此場合ニ於テモ債務者並ニ第三者ニ對シ全然效力ヲ有
セス縱合其間ニ日時カ到来シ又ハ證明若クハ送達ヲ追完シ失敗トキト雖モ亦
然リ拂拭く至本ノ提出モ可也(但ニ本ハ實ニ其詳述又署主蓋ハ申す事要文
(四)現役ノ軍人軍屬ニ對シテハ強制執行ハ其上班司令官廳カ通知ヲ受ケ各
メントキニ限リ之ヲ始ムルコトヲ得(第五三〇條第一項)而シテ此條件ノ存否ハ執
行機關ニ於テ之ヲ審査スルロトヲ要シ隨テ其通知ヲ爲シタル債権者ハ之カ爲
諸官廳ニ通知ノ受取證ヲ交付ヲ求ムルコトヲ得シ(第五三〇條第二項)正規
第四級執行機關カ債権者ノ申出ニ因リ一タヒ手續ヲ開始シタル後即於テハ其
執行行爲カ執行裁判所ノ爲ス所タルト又執達吏ハ爲ス所タルトノ間ハ不更其
債権者ノ申立ナキニ於テハ之ヲ停止制限スルコトヲ無ラノ原則ニ爲スト雖モ左
ノ場合ニ於テハ債務者又ハ第三者カ書面ヲ提出シタルモ基キ執行機關ハ其行
為ヲ停止若クハ制限スルコトヲ要ス注意停止トハ執行ノ全部ヲ止ムルヲ謂ヒ

制限下ニ其一部分ヲ止ムルモノ謂フ之は強制執行ノ命今ハ委託執行並ニ附付
 (甲) 第一審又ハ上級審ノ受訴裁判所ニ於テ強制執行ノ命令ヲ廢棄スルノ裁判
 アリタルトキ即チ故障控訴上告再審ノ結果トシテ言渡アリタル判決カ執行械
 ラルベキ判決又ハ其假執行ノ宣言ヲ廢棄更正ル時(第五一〇條又ハ右ノ判
 決カ強制執行ノ許スヘカラツルモノタルヨドラ宣言行タルカ(第五四五條、第五
 四六條、第五四九條又ハ終局的ニ執行ノ停止ヲ命令タム)時(第五四八條、第五
 九條第四項又ハ第一審若クハ抗告審ノ決定カ強制執行ノ全然許未候カラズ
 コトヲ宣言シタルカ(第五二二條、第五五八條若クハ一部許スヘカラズコトヲ
 實言シタルトキ(第五四四條是ナリ)執行機關ハ此ノ如キ内容ニ有スル執行シ得
 バキ裁判ノ正本ノ提出アリタルトキハ當ニ其行動ヲ停止スルコトヲ要スルノ
 ミナラス(第五五〇條第一號尙正其既ニ爲シタル執行處分ヲ取消スコトヲ要ス
 (第五五一條隨テ執行機關此裁判カ執行機関得ヘモモニタビヤ否ヤフ審査ス
 ノコトヲ要シ之カ爲メ必要ナル場合ニ於テハ申請人ヨリ之ニ必要ナル證明ヲ
 繳セサルベカラス(例ヘバ判決確定ノ證明又如キ)而シテ此裁判ノ正本ノ提出カ

何人ノ手ニ出フルヤハ之ヲ問フヨリナシト雖モ此事項外ニ裁判所ガ職權ヲ以
 テ調査スヘキモノニ屬ニタルヲ以テ停止ヲ求メシトスル者ニ之ヲ提出セツル
 ベカラナムヤ勿論ナリ

(乙) 強制執行ノ命令ヲ一時停止スル受訴裁判所ノ裁判アリタルトキ(第四六〇
 條第五〇〇條、第五一二條、第五二二條第二項、第五四四條、第五四七條、第五四九條
 第四項又ハ急迫ナル場合ニ於テ執行裁判所カ右ノ裁判ヲ爲シタルトキ例ヘ
 執行又ハ執行處分ノ一時ノ停止ヲ命スル決定(第五五〇條第二號既ニ既ニ生れ
 タル執行處分ノ取消ヲ命スル決定ノ如シ)第五〇〇條、第五一二條、第五四七條、第五
 四九條第四項、第五五一條此場合ニ於テモ亦其裁判ノ正本ヲ提出スルコトヲ
 要スト雖モ此種ノ裁判ノ執行力又ハ決定ニシテ隨テ之ニ對シテ不服ヲ申立ツル
 コトヲ得ナル裁判ナルカ(第五〇〇條第三項、第五二二條又ハ抗告ヲ以テノミ不
 服ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ裁判ニシテ共ニ即時ニ執行シ得ヘキ事案ナムニ以
 タ(第五五九條第一號)之カ執行力ノ存在ノ證明ヲ必要トセズ而シテ此一時ノ停
 止ニ續行ヲ命スル裁判所ノ裁判アリカ又ハ執行裁判所ノ停止ヲ裁判ヲ追

認スル受訴裁判所ノ裁判ヲ提出スルカ爲メテ定めラバ久遠ノ期間タ其結果ヲ得
シシフ經過スルニ至ダマテ存續ス(第五四七條第四項、第五四九條第四項又若シ
其停止カ條件附ニ命セラレタルトキ即チ債權者カ施行ノ爲ニ保證ヲ立ヌ
ルコトノ公ノ證明書ヲ執行機關ニ提出シ且相手方ニ其證本ア送達シタルコト
ヲ證明スルニ至ルアテ存續ス(第五二九條第二項)
(丙) 債務者カ執行開始ノ前ヨリ(第五〇五條第二項又ハ執行開始内後ニ於テ其
執行ヲ避タルコトノ條件トシテ裁判所ヨリ定メラレタルモノヲ執行開始ノ後
ニ履行シタルトキ詳ニ言ヘハ債務者カ保證ヲ立ヌ又ハ訴訟物ヲ供託シタル場
合是ナリ(第五〇〇條、第五一二條第五二二條、第五四七條乃至第五四九條、第五五
〇條第三號此場合ニ於テハ公ノ證明書ヲ以テ其條件ノ履行ノ證明シタルトキ
ハ執行機關ハ管ニ其行為ヲ停止スヘキノミナラス尙ホ其既ニ爲シタル執行處
分ヲ取消スヘキモノトス(第五五〇條第三號第五五一條)
(丁) 執行スヘキ判決ノ成立後ニ於テ債權者カ其辨濟ヲ受ケ又ハ義務履行ノ猶
豫ヲ承諾シタル旨ヲ記載シタル證書ヲ提出シタルトキ(第五五〇條第四號此場

合ニ於テハ執行機關ハ其行動ヲ停止スルヨリ要スト雖モ其既ニ爲シタル處
分ヲ取消スコトナシ(第五五一條然レトキ又ハ債權者カ其辨濟又ハ猶豫ノ事實ヲ
争ヒタルトキハ執行ハラズ債權者ヘ之ニ對シテ異議ノ訴ヲ提起シ
ヘキノミナシテ本訴ノ事由ヲ變更セシム時又ハセシム時又ハ其既ニ爲シタル處
第五二執行手續ノ開始並ニ履行ハ其執行スヘキ若クハ假ニ執行スヘキモノト
セラレタル終局判決ニ關スル訴訟ノ中斷若名ハ中止ニ依リ之ヲ許スヘカラズ
ルニ至ルヨトナシト雖モ左ノ事由ノ存ニル場合ニ於テハ之ヲ許ナス
(甲) 執行行為ヲ求タル債權者ノ死亡ニ因リテ右ノ效力ヲ生ス何トナレハ執
行機關ハ唯其執行力アル正本ニ表示セラル者ノ爲ニシテミ執行リ爲スヘモ
ノナルカ故ニ第五二八條其債權者ノ死亡ヲ知リタルトキハ其通知カ何人ノ手
ニ出タルヲ問ハス執行ヲ開始又ハ履行タルコトヲ得ヌ又其死亡ノ後之ヲ知ラ
ナルカ爲ニシタル執行行為ハ其效力ヲ有セス隨テ取消シタルキモノナリ
シ又其死亡前ノ執行行為ハ無時存立スルモ更ニ之ヲ執行スルヨリ可得ヘカラ
ス債權者又相續人カ其氏名ヲ記載シテ債務名義ヲ執行力アル正本ヲ得テ之ヲ

相手方ニ送達シタル事項ニ限リ強制執行ヲ開始若ク該執行スルホトヲ得ベキモノナス(第五二八條第二項然レバ又死亡者ノ任シタル訴訟代理人ノ委任書ヲ死亡ニ因リ當然其代理權ヲ失フシトキハ以テ第六九條更ニ相続人ノ名添於此ノ如き執行力アル正本ヲ付與ヲ求ムルコトヲ得入ル後當即ち當之を取(乙)執行ヲ受クベキ者ノ死亡シタル場合ミ取引セシム者ノ名添(第五二八條第一項故ニ債務者ハ豫め其取引の當主を取引セシム者ノ名添ヲ存スル執行力アル正本ヲ付與ヲ受クガコトヲ要ス。但モ(一)執行ヲ受クベキ者カ死亡シタルトキハ右述ヘタルト同一の理由ニ因リ執行ヲ開始スルコトヲ得ヘカラス(第五二八條第一項故ニ債務者ハ豫め其取引人ノ名添ヲ存スル執行力アル正本ヲ付與ヲ受クガコトヲ要ス。但モ(二)之ニ反シテ既既に開始セラヒタル手續ヲ續行中例外不シラ之ヲ受クベキ者ノ死亡ニ因リテ妨ケラリルコトナク其遺産ニ對シテ之ヲ續行スヘタ更ニ其相続人ノ氏名ノ表示アル執行力アル正本ヲ受クルコトヲ必要トセス又其遺産カ既エ相續セラレタルト否トヲ問フコトヲ要(第五五二條然レバ元執行行爲無付キ債務者ヲ知ルコトヲ要スル行為ハ其相續人又其遺産ヲ管理人無對シテ之ヲ為ス者カ其之ヲ終ク場合茲ニ相續人ノ所在明カラタサ所場合皆於タベ執行裁

判所云債務者ノ申立ニ因ル事時又特別代理人之選定之ヲシテ當該執行者有為連關スル代理入院ラシムヘ屢シメトヨリ第五五三條第三項第第一款第五十六條第五十九條第五九八條第六十九條參照)執行ノ前被委任人等ノ監督・照査ノ権力及

第三章 強制執行 一對ズル保護

本章又第一節又一般ノ被委任人等公々必要大体ノ監督・照査其取引事務
強制執行ノ手續ニ於テ當事者双方又公等ノ保護又監督法律上債權者開爲メニ其保證手段ヲ講ス甚或共感又債務者ノ為論三強制執行ニ對テ少保護ノ方法又認メテ所處另テ又シテ此債務者保證手段タルヤ當ニ未確定ノ請求ヲ執行スル場合ニ於テ之ノ存在を證明ヘ持來テ又スミナラズ又裁判所又請求書關シ審理果悉次其議判カ相當ノ審級ヲ經由シタル請求本付ケ者亦之署認許ムノ必要ヲ見ル甚ぞ債權者ノ請求カ右ノ如是認定後タル場合ニ於テモ例へ且債權者乃其後任意ニ其債務を履行シタル時若クハ債權者カ其履行之猶豫ヲ許諾シ度ル如其事情若變更或見ルヨリ本アル事變其他債務名義ノ成

立後執行手續ノ開始前ニ於テ債務者ノ爲見ニ有利害アル事情執行ヲ避ケ得ヘシ
ノ到來フ見得コトアリヘク此ノ如き場合ニ於テ之の債務者又シ執行人避難
コトヲ得セシム手段ノ定ナカルベカラニ又強制執行を厭ヘバ執行カ其
限界ヲ逸出シテ債務者の損害ヲ加エル事ナアルヘ然又本來執行人間係又有セ
ナル第三者カ執行人爲ニ因リ其權利ノ侵害ヲ受タルコトアルベク此ノ如き場
合ニ於テハ此損害ヲ防ダリシテノ得セシ手段未定ナカルベカラナシ然ナリ而シ
テ此ノ如キ場合ニ於テ其強制執行ニ對世ノ異議ノ債務名義ニ對スル無任バ
ト執行文ノ付與ニ對スルニ在ルト又其執行行爲自體ニ對スルニ在ル無事問セ
ス債務者又ハ第三者ノ爲ニ保護ノ處分ノ必要ナルヲ勿論ニシテ其手段シ
テハ或ハ既ニ開始セラレ而モ或理由ニ因リ明カニ不當ト認メ得ル執行ノ結果
ヲ取消スカ又ハ不利益ノ發生ヲ防止スルノ爲ニ既ニ進行中ナル不當ノ執行
手續ヲ停止スルノ必要ニ生スルトシテ此ノ如キ手段ニ關シテハ法律又思之總意之要件又規定ナリオ必要
アガナ勿論半属子而シテ此等ノ異議也般夫之強制执行手續又中無松次其手續

ノ一部トシテ之ヲ爲スローラ許シ隨テ直接ニ執達吏等ノ執行機關ニ對シテ異
議ヲ陳フアルコトヲ許スラ以テ簡單ニシテ策ノ得タルモノト爲スハキガ如シ而
雖も法律ハ特ニ執行機關ニ對シ執行ノ前提要件ノ存否ノ審査ニ關シ極メタ狹
シナル權限ヲ付与シタルト同シテ(第五二九條)又執行人手續ノ開始以後ニ生ジタ
ル事情ニシテ該手續ノ開始若クハ續行ヲ妨クベキ原由タニシキ事情ノ審査テ
執行機關殊ニ執達吏ニ依託スルコトヲ避々テ依テ執行機關別其執行ノ形式的要
件タル執行人存在スルトキニ限リ始メテ活動スルト同様ニ其活動ヲ止シス
ルニ付ラモ亦唯此ノ如キ處分ヲ命スル裁判所ノ命令アルモ計テ要スルモノシ
シ随テ當事者ノ一人カ此ノ如キ命令ヲ提出スルマテハ即チビ存在スル債務各
義及ヒ之カ執行力アル正本ニ基ク執行行爲ハ之ヲ繼續スル者モノト定ム第五
百五十條)此原則ヲ示スモノナリ(同條第一號第二號參照)且テ此狀合ニ右述
右述ヘタルカ如クナルヲ以テ執行人處分ノ取消又ハ執行手續ノ停止ヲ察スルキ
原因ノ存スルヤ否ヤノ審査ハ總テ裁判所ニ屬シ受訴裁判所又ハ執行裁判所め
特ニ述フル條件ニ依リ之カ審査ヲ爲スハク執行機關タル執達吏ハ第五百五十

第三號及第四號は定ムル簡單ナル問題ヲ審査スル又權限ヲ有スルニ過キ
未即チ執行メ原因カ消滅シタル場合ニ關シテハ第四號之場合ニ付カズ第三號
スルコトヲ得ムタ又執行ヲ停止スノ原因又來シタル場合ニ付カズ第三號
場合于限り之審査ヲ爲スノ權ヲ有ス而シテ此ノ如先端限ヲ有スル場合ニ在
テテモ其審査ノ效力ハ法律ニ依リ限定セラシ其終局的ニ處分ニシテヨリ権限
場合即チ管轄執行ヲ停止スルニ亦要スルミナラス例ヘキ就賣又停止在於
タ如其尚未既ニ爲シタル執行處分ヲ取消スニ(例ヘ差押又解附スル又如
キヲ得ル)ハ事情ノ極メテ簡単ナリ第五百五十條第三號之場合ニ關節ヒ同條第
四號之場合ニ在リテハ斯ニ爲シタル執行處分ヘ當時之固保持無給ム前款但書
トニ依ニ此場合ニ於テ既ニ爲シタル執行處分ヲ終局的ニ遮止不付外ト不得
ト欲キハ更ニ裁判所ノ裁判ヲ經テ第五百五十條第十一號之規定從ヒ執行力ア
ル正本ヲ提出スルコトヲ要ス(以テ第五五百五條特ヘ言ハシ審査ニ關心固ムセ
次ニ債務者カ執行手續ニ於テ債務者ニ對テ裁判所ニ保護ヲ求ムルト態様ニ付
テ言ハシハ(第一)債務者ハ執行力有ル正本有付與ノ證書ヲ付セテ其判決ナルを否セ
テ

關シ之ヲ付與スルノ前提要件ノ存在セサルコトヲ主張レバ異議ヲ申立テ之ヲ
立證スルコトニ依リ當ニ既ニ開始セラレタル執行手續ヲ妨クムニ止マラスシ
テ向ホ其手續ノ開始ヲ妨ケントスルコトアル(ク第五二二條(第二)執行手續ノ
開始アリタル後ニ於テ債務者カ自己ニ對スル執行實施ノ方法ニ對シ殊ニ執達
吏ノ遵守ストキ手續ニ關シ異議ヲ申立てガ由上ヲ得ム(第五四五條(第五)債務
者ハ判決其他ノ債務名義ニ因リ確定シタル請求自體(元對シ異議アリ又存キト
ヲ得ヘシ第五四五條)未だ執行を受領セシム者又其本來未受領セシム者又未受領
債務者ノ提起スベキ此等ノ異議ハ總て執行ヲ全然廢除シヒト所が標的の目的ス
ルカ又ハ其一部ヲ排除セシコトヲ目的トスル漢ニシテ其異議既付テ理由ア
リト認メラル場合ニ於テハ此ノ如キ效果ヲ生ムキテ又其本來未受領セシム者
異議ハ總て執行行為ヲ繼續タルコトニ付キ何等直接ニ障礙ヲ生セルコトナキ
ノ原則トシ(第五二二條第二項第五四五條第五四五條唯此等は異議ヲ付キ裁判
スル權アル裁判所ニ於テ裁判前假て處分ヲ命スセヨリ得者急追ヌバ事情
アリト認ムキ場合ニ於テハ執行裁判所モ或ニ申立ニ因リ或ニ職權無以テ債

被者ノ利益ヲ爲シ裁判前に於テ假ノ處分ヲ爲スセドヲ得ル事止ム然レバ
法律ハ債務者カ此ヲ如キ異議ヲ申立ツルコトヲ爲サヌシテ既ニ存在スル或債務
名義ニ基ク強制執行ノ適法ノモ限タルコトニ之ヲ認メ唯強制執行ノ前提要
件タル債務名義其モノヲ排除スルコトヲ目的セスル次ノ場合ニ付テモ亦其利
益ノ爲メニ假ノ處分ヲ爲スコトヲ許ス第二不服申立期間ノ經過シタル後ニ原
状回復ノ申立アルカ又ハ再審ノ申立アリタル場合ニ於テ受訴裁判所カ申立ニ
因リ假ノ處分ヲ命スル場合即チ之ニ屬ス蓋シ此場合ニ於テハ債務者ノ判決決
定シ之ニ執行力ナ存スルコトヲ争フニ非シテ唯之カ取消ヲ求メ以テ執行
ヲ許ナサラシメント目的トスルモノアレムナリ第五〇〇條(第二)債務者カ
假ニ執行シ得ヘキモノト宣言セラレタル判決ニ對シ故障又ハ上訴ヲ提起シタ
ル場合亦右ニ同シ第五一二條

第一節 債務名義及ヒ之カ執行文ヲ排除スルノ手段

第一款 債務名義ニ對スル債務者ノ異議

第一般 二へ續五四五正論義ニ基團夫典義ニ付スル議事ニ關する事成者
債務者ハ既ニ開始セラレタル強制執行手續奉基本タム債務名義又ハ將ニ開始
セラルヘキ執行手續ノ基本タム債務名義其モノヲ排除スルニ因リ強制執行ヲ
避タルコトヲ得ルノ最大ノ利益ヲ有ス而シテ此利益ヲ得ルノ手段トシテハ第
一二既ニ成立スル執行シ得ヘキ裁判ヲ同一請求ニ付テノ裁判手續ニ於テ取消
スコトヲ求ムルヲ目的トスル總ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ即チ假ニ執行シ
得ヘキモノト宣言セラレタル下級審ノ判決ヲ廢棄スル上級審ノ判決ヲ求ムル
申立ヲ爲スコトヲ得ルカ如キ又假差押假處分ノ取消ヲ求ムル時又ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル
カ如キ是カリ(第七四四條第七四五條第七五六條而別此等之義到アリタクト
キハ之カ正本ヲ提出スガニ因リ執行機関ノ其執行行為ヲ取消シムルコ
トヲ得ヘシ第二ノ手段トシテ債務名義ノ成立後既ニ確定シタル判決ニ對

シ再審ノ訴ヲ提起スル事依リ新規ノ訴訟手續立輸局見解至シルニ
ク此判決モ亦其結果ニ於テ既執行シ對照債務者莫係被貿易足利(第五五〇條)
第一號裁レドモ又第三判決段階シテ強制執行固聞シ更上訴裁再審ノ訴エ
於ケ所カ始シ既ニ存在夫既債務名義當付本其訴證上ス欠缺又ハ實體
法上ミ於外不當ナル理由ヲ主張シモノト異ナガ其成立ハ之ヲ争ハシテ
唯ニ多モ正當ニ成立シタル債務名義方其後ニ於テ當事者間以事情合意減
少執行ヲ許スニ遭セタル度至夫タガ主張失ル特殊ノ訴ヲ認可所謂請求
シ關スル債務者ノ異議ノ訴ヲア形式ヲ以テ新法及訴訟手續起開始時為準モノ
即チ是ナ求ムハ日向モ本來無事も申立て書ハシメ付ヘシ取手續シテ
第二判決件立スル時計付ヘシ號牌モ同ニ附奉リ特此毛隸ニ號文及當
請求ニ對スル債務者莫異議既訴ニ於テ既上判決益因訴確定少シル請求自體
ニ對スル異議ヲ主張スル事モトア要以而此異議ノ理由ヲ訴訟法ノ規定
裏識ナ主張スル事モテ要タルは頭辯論不終結後本生シテ當事者ニ限歌之願望
擴スルヲ許シ(第五四五條第二項)此訴ニ於テハ素ト請求ニ關係アルカ為メ

市村町ハ自治團體トシテ市町村共同事務ヲ處理シ其住民ニ對シ命令權ヲ行使
スルニ由リ必要上市町村ノ法則規定等ヲ定メ得ラレザルヘカラス其權ヲ稱シ
テ市町村ノ自主權ト謂フ換言スレハ自主權トハ一方ノ行爲ニ依リ他ヲ基東ス
ハ法規ヲ制定スル權ナリ而シテ市町村ノ法則規定ハ通常條例及ヒ規則ノ形ヲ
以テ發布セラルモノニシテ條例ト規則トハ第一實質第二許可ノ手續ニ於テ
異ナルモノナリ(註)會式ヨリ執掌者ハ證書ヲ其職員モ署印モ置カセ
第一實質上ノ差異ヲ擧クレハ條例トハ市町村ト住民トノ關係
即チ市町村ノ組織内ハ權利義務ニ關スル法規ニシテ規則トハ主トシテ營造物
ノ組織及ヒ其使用方法ヲ規定シタルモノナリ
第二許可ハ手續ニ於テ異ナルハ我國ニテ條例ヲ發スルトキハ之ニ付キ内務
大臣ノ許可ヲ要スハ規則ニ付テハ内務大臣ノ許可ヲ得ハシテ要セス府縣又ハ
郡參事會ノ許可ヲ得ルニ止マムモハナリ蓋シ一ハ住民ノ權利義務ニ關スルモ

他ハ住民ノ権利義務ニ關スルヨコト殆トナケハ、ナガリ條例ト規則トノ間ニハ效力上ノ差異ナシト雖モ條例及ヒ規則ト法律命令トノ間ニハ效力上ノ差異在スルモノナリ即チ條例及ヒ規則ハ法律命令ニ抵觸スルヲ得ナルモノナリ今條例規則制定ノ手續ヲ略言スレハ、
(1) 発案市長等
(2) 議決市町村會之ヲ議決
(3) 登録市町村會之ヲ登記
(4) 批准市町村會之ヲ批准
(5) 公表市町村會之ヲ公表
(6) 施行市町村會之ヲ施行

(口) 一議決賀市町村會之ヲ議決
(7) 下級團體ト連合沖縄縣ノ區會及ヒ北海道ノ區會及ヒ町村會ハ條例及ヒ規則ヲ議決スルノ權限ヲ有セナルモノナリ
(ハ) 許可 諸條例ハ内務大臣ノ許可ニ依リヲ定マリ規則ハ府縣參事會及ヒ都參事會ノ許可ニ依リヲ定マリモノナリ
(ホ) 注意スベキハ市町村條例及ヒ規則ハ共ニ市町村團體ノ意思ナルニ由リ此等ハ内務大臣ノ許可ヲ經ルモ省令ト爲ラス府縣ノ機關ノ許可ヲ經ルモ府縣令ト爲ラサルナリ唯上ノ制外之區會屬之區總會ヲ設タルトキ府縣參事會又ハ郡參事會ニテ條例ヲ議決スルナリ此場合ニ於テハ條例ヲ議スルモノハ市町村ノ
ト爲ラサルナリ唯上ノ制外之區會屬之區總會ヲ設タルトキ府縣參事會又ハ郡參事會ニテ條例ヲ議決スルナリ此場合ニ於テハ條例ヲ議スルモノハ市町村ノ

機關ニ非シテ府縣・郡ノ機關ナルモ府縣參事會及ヒ都參事會ハ市町村ノ機關ニ代ヘテ之ヲ議決スルモノナルカ故ニ其條例ハ市町村ノ條例ニシテ即チ市町村團體ノ意思ヲ表示シタルモノナリ又市町村團體例及ヒ規則ハ團體ノ意思ナルニ由リ國家消滅スレハ其法律命令ハ原則上效力ヲ失フト等シテ市町村團體廢滅スルトキハ其條例規則共ニ效力ヲ失フヘキモノナリ此點ニ於テ或省廢セラルモノナリ其省ノ發シタル命令ハ直チニ效力ヲ失ハサルト其關係ヲ異ニスルモノナリ

第九項 市町村ノ財政

第一 支出

支出ニ必要ノ支出ト然ラサルモノトアリ必要ノ支出トハ法律命令上市町村ノ義務ニ屬スル所ノ支出ニシテ法律命令上市町村ノ支出セサルヘカラナル所ノナリ現行市町村制ニ依レハ此必要ノ支出中ニ從來法律及ヒ總令ノ命令ニ依リテ負擔スルモノヲ包含スルモ將來市町村ニ對シ此ノ如キ負擔ヲ爲サシメ

ントスルトキハ法律ニ非サレハ必ス勅令ヲ以テスヘキモノナリ此必要ノ支出ノ他ノ支出ト異ナル點ハ監督者之ヲ強制的ニ市町村ヨリ支出セシムルコトヲ得ルニ在リテ若シ市町村カ此等ノ支出ヲ豫算ニ載セス又ハ臨時ニ支出スルヲ實行セサルトキハ監督官廳ハ理由ヲ示シテ之ヲ豫算ニ加ヘ又ハ臨時支出セシムルコトヲ得之ヲ稱シテ強制豫算ト謂フ

第二 收入

(1) 上級團體ノ補助 補助ノ方法ニ二種アリ一ハ其費用ニ對シテ比例的ニ交付セラルモノ即チ歩合ニ依リテ交付セラルモノニシテ他ハ下渡金トシテ一定ノ比例ニ依ラス或金額ヲ下付セラルモノナリ
 (2) 自己ノ收入
 (甲) 公法上ノ收入 公法上ノ收入ノ私法上ノ收入ト異ナルハ公法上ノ收入ヲ納メサル者ニ對シ國稅滞納處分法ニ依リ之ヲ強制スルコトヲ得又公法上ノ收入ノ賦課徵收ニ對シ不服アル者ハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ル丙
 法上ノ收入ニ關シテハ此ノ如キ法律上ノ效果存セサルニ在リ

(A) 使用料、加入金 使用料ハ營造物及ヒ共用財產ノ使用ニ對シ之ヲ徵收スルモノニシテ加入金ハ新ニ營造物又ハ共用財產ヲ使用セントスル者ヨリ之ヲ徵收スルモノナリ

(B) 手數料 特別ニ利益ヲ受クル一箇人カ行政廳ノ行爲ニ對シテ拂フ所ノ報酬ナリ

(C) 過料及ヒ過怠金 催促手數料ハ前者ノ例ニシケ後者ハ吏員ヨリ徵收スル金錢上ノ制裁ナリ而シテ共ニ命令ノ執行ヲ目的トシテ徵收スル所ノモソナリ
 (D) 市町村稅 使用料手數料ト異ナリ納稅者ノ利益及ヒ報酬ニ全ク關係ナリ
 収入ナリ而シテ之ヲ徵收スルハ市町村ノ費用ニ充ツルヲ目的トスルモノナリ
 フ其徵收ハ負擔力ノ多少ニ從フ原則トスルモノナリ市町村稅ヲ使用スル點ヨリ觀レハ二種アリテ「一目的稅他」一般稅ナリ「目的稅」特別ノ事業費
 用ニ充ツルカ爲メ特ニ徵收スルモノニシテ例ハ市町村ノ一部又ハ數多カ八
 カ專ラ使用スル營造物ノ費用ニ充ツルカ爲メ其使用者ヨリ特ニ徵收スル事體我ノ如シ然シトモ是レ特別ノ場合ニシテ普通市町村稅ハ其使用ノ目的四限ヲ解

一般ノ費用ニ充ツルモノナリ是レ即チ一般税ヲ、總ラ市町村税目、市町村之他ノ收入ヲ以テ充ツルコト能ハサル場合ニ始メ、特徵收ルモシニシテ、沙汰其賦課事二方法アリ一ハ國税、府縣税ノ附加税トシテ賦課スルモシニシテ、他に特別税ナルシヲ賦課スルモノナリ而シテ市町村税ハ直接税ニ附加スルヲ本則ト爲ス、直接税ニ附加スルニ一定ノ歩合ニ達スルモテハ許可ヲ要セサル也、シテ、其歩合以上ニ附加スルトキ又ハ間接税ノ附加税ヲ徵收スルベキ若論シ特別税ヲ徵收セントスルトキ始メア内務大臣ノ許可ヲ要スルモシテ、市町村税納請者即チ是ニシテ課税ノ目的物ハ土地、地業、營業及ヒ收入ナリ、其額高ハ、市町村税ハ金錢ヲ以テ徵收スルヲ通常トスルモ其他必要ニ應シ人夫又ハ現品ヲ徵收スルコトアリ即チ夫役現品ナリ、又公法上ノ私法上ノ收入

(A) 市町村有ノ財産ヨリ生スル收入

(B) 市町村ニ對スル寄附金

(C) 市町村ノ負債 市町村ハ負債ヲ償還シ或ハ市町村永久ノ利益ト爲ルヘキ、支出ヲ爲スカ爲メ又ハ天災地變等已ムヲ得タル場合ニ限リ、負債ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ、其他會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スルヲ條件トシテ、一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得ルモ、一時ノ借入金ハ將來ニ負擔ヲ殘サナルカ故ニ之ヲ一般ノ負債ト同一ニ看做ス、即チ負債ハ永遠ニ負擔ヲ殘スヘキモノハ力外カ故ニ之ヲ爲スルキハ内務大臣ノ許可ヲ要スルモ、一時ノ借入金ニ付テハ然ラナバナリ。

第三 市會計 市長、副長、共議ニ掛合シ、附之之處會々山林大會、沙汰奉市町村市會計年度、國庫ノ會計年度ト同シク、其各年度ノ豫算ハ毎年之ヲ定メ豫算外又ハ豫算を超過ヘ支出ヲ爲ス所必要アルモ、ハ豫備費ニ依ルカ又ハ市町村會ノ認定有經久之ヲ爲ス、皆吾人ナム市町村、借收入支出ノ命令ヲ掌ル者、市參事會及町村長ハ其收入及支出ヲ掌ル者ハ收入從ナリ、收入從ナリ、市參事會、町長又ハ場合當依舊監督官廳等リ、號之多寡、命令ヲ受クルニ非ナリ、支出來、改得ス又續命市參事會町長、命令力ナリトモ、其命令違法大

トモヘ又之ヲ支出ガノ時ハ傳チテ手取人ガ若シ命令ナクジテ支田ガ爲シ或
シ違法ノ命令ニ基キテ支出ヲ爲シ外國人ハ其ニ收入役ハ責任ニ歸ズルモノ
ナリ又年度經過後一定ノ時期内ニ必ヘ決算判爲スヘキモノニシテ其決算モ難
解ノ議決權ヲ有スル市町村會ニ報告スベシ而シテ市町村ニ於テ決算ヲ不當ニ
認メタルトモハ其意見ヲ監督官廳ニ上申スベキモノナリ監督費ニ付ム此又市
第四市町村ノ財產、貢賦、會計等を同シテ其者中興、運轉に就きシテ重
(4) 市町村住民ノ直接ノ共同ニ供スルモノノ例へハ入會ノ山林、入會ノ牧場等
ノ如シ

(5) 市町村全體ノ用ニ供スル財產、
 (甲) 市町村直接ノ公用ニ供スルモノハ例へハ役場ノ建物、役場ノ敷地及ビ道路
ノ敷地等ノ如シ
 (乙) 市町村ノ收入ノ源ト爲スヘキモノノ以例へハ市町村有ノ山林、田畠等ノ如シ
物品經濟ノ時代ニ於テ市町村ニ其用財產多カリシモ其後收入財產漸次增加
シ之ト反比例ニ其用財產ハ減少シ今日ノ市町村經濟ノ基礎ト爲ルモノハ主ト

雜

課

○外國人ト共有セル船舶ノ賣却料、日本船舶ハ商人トシテハ全ク外國人ノ所
有若クハ共有ニ屬スルコトヲ認メス必ス日本臣民ノ專屬タルニトモ要スルモ
ノトス、船舶法第一條第一項第四號然ルニ事實上内外人共有ノ船舶カ日本ノ船
籍上日本船舶トシテ登録セドモノフ其名義上ノ所有者タル日本人民其專斷ヲ以
テ之ヲ他ニ賣却シタルトキハ冒認罪若クハ受寄物費消罪等ノ犯罪ヲ構成スヘ
キカハ一ノ疑問ニ屬スルカ如シト雖モ法律ノ眼ヨリ觀レハ日本船舶ハ絕對的
ニ日本人商人トシテノミニ局スルモノトスルカ故ニ縱合事實上外國人有所有
又ハ共有ニ屬スルモ法律ガ斯ル法網ヲ潛ル者ヲ保護スルノ必要本キ因同時ニ
法律上ノ所有者ノ行為ヲ否認スルヲ要セサルナリ我大審院ハ右ノ問題ニ對シ
穩健ナル論據ヲ以テ原判決(是時控訴院ヲ破毀シ無罪ノ宣告ヲ爲シ)曰ク「船舶
法第一條ニ依ルトキハ日本ノ船舶ハ日本臣民ノミ所有シ得ヘタ外國人ハ日本
船舶ノ單獨ヲ所有者タルコト能ハサルハ勿論日本船舶法共有者シハ時分ヲ

有スルコト能ハナダヤ明カナリ然レトモ船舶法ハ日本船舶ノ所有ヲ外國人ニ
禁スルニ止リ絕對ニ外國人ノ船舶所有權ヲ否認シタルニハアラテルヲ以テ我
國法ノ下ニ於テモ外國人ノ船舶所有權ヲ認メサルヘカラサルハ勿論ニシテ日
本臣民ノ所有ニ係ル船舶ト外國人ノ所有ニ係ル船舶トノ間ニ存スル差異ハ一
ハ日本ノ船舶トシテ我國法ノ保護ヲ受ケヨトヲ得ルモ他ハ日本ノ國籍ヲ有
セサル船舶トシテ日本船舶ニ固有ナル利益ヲ享受スルヨトヲ得サルノ點ニ存
スルノミ是ヲ以テ日本ノ臣民カ其所有ニ係ル日本船舶ノ所有權ヲ外國人ニ讓
渡シタルトキハ其船舶ハ日本船舶タルノ資格ヲ喪失シ日本臣民及外國人ニ於
ノ國籍ヲ有セサル船體ノ所有權ヲ取得スベク日本ノ臣民カ其所有ニ係ル日本
船舶ノ持分ヲ外國人ニ讓渡シタル場合ニ於テモ亦タ同ノ效果ヲ生スベク持
分ノ讓渡ト共ニ其船舶ハ日本船舶タルノ資格ヲ喪失シ日本臣民及外國人ニ於
テ日本ノ國籍ヲ有セサル船體ノ所有權ヲ共有スルコトトナルヘシ總ク是等ノ
場合ニ於テ日本ノ臣民ト外國人トノ間ニ爲サレタル日本船舶ノ所有權又ハ其
持分ノ讓渡行爲ハ有效ニシテ船舶ニ關スル權利ヲ移轉シ又ハ變更スルノ效果

ヲ生スベク唯タ其船舶ハ主體ノ變更ト共ニ日本ノ國籍ヲ喪失シ爾後日本船舶
トシテ我國法ノ保護ヲ受ケルコト能ハナダヤ過キス故ニ内外人カ當初ヨリ船
舶ノ所有權ヲ共有シ又ハ日本臣民カ單純ニ其所有スル日本船舶ノ持分ヲ外國
人ニ讓渡シタル場合ニ其船舶ハ縱シ日本ノ國籍ヲ有セサルモ其船舶ヲ保管不
ル共有者ノ一人カ其ニ己ノ意志ヲ以テ擅用シ之ヲ處分シタルトキハ委託料費消
耗ヲ構成シ刑法第三百九十五條ニ規定スル刑罰ノ制裁ヲ受ケナルヘカラサム
ハ勿論ナリ然レトモ日本臣民カ日本船舶ノ所有スル場合ニ船舶ノ所有者タル
日本臣民ト外國人トノ間ニ於テ其船舶ヲ表面上日本船舶トシテ其有スルコト
ヲ契約シタルトキハ其契約ハ少クモ契約ノ目的タル船舶ノ權利ヲ移轉スルノ
效果ヲ生スベキナ是レ本訴ニ於テ決スルコトヲ要スル極メテ重要ナル點ナリ
トス蓋シ我船舶法ニ於テ日本船舶ノ所有權ヲ日本臣民ノミニ許與シ外國人ノ
爲メニ此權利ヲ認メタル我國海運業ノ保護獎勵ヲ目的トスル等公益上ノ趣
由ニ基ツキタルセノニシテ日本臣民個ノ利益ヲ保護スルカ爲メニアラナ所
コトハ敢テ説明ヲ要セナルヲ以テ日本船舶ノ所有者トシテ國法上ノ利

益ヲ享受スル日本臣民ハ其ニ己ノ意志ヲ以テ外國人ノ爲害ニ其利益が處分法
外國人ト共ニ其利益ヲ分ツヨ木サ得失財ナ明ガナ外左スレバ日本臣民カ其所
有スル船舶ヲ日本ノ船舶トゾテ外國人ト共有船舶ナキ別契約タルモ其契約ハ國
法上日本船舶ノ資格ナキ内外人ノ共有船舶ナ日本船舶タラムハルノ效ナ
生セナルハ勿論其契約ハ不法ノ契約ニシテ絕對ニ其效ヲ生セナルヲ以テ當事
者間ニ於テ契約ノ目的タル船舶ノ權利ヲ移轉スルノ效果ヲモ生セナルモノト
ス抑モ内外人ガ一ノ船舶ヲ共有スル場合ニ其船舶ハ日本船舶トゾテ我國法ノ
保護ヲ受クルコト能ハザルヘ前既ニ説明スル所ニ依リテ明カナリ然ルニ日本
臣民カ一ノ日本船舶ヲ所有スルニ當リ外國人ト契約シ表面上日本船舶トゾテ
之ヲ共有セントスルハ日本ノ船舶タルノ資格ナキ船舶ニ對シ日本船舶ニアテ
ナレハ享受シ得ヘカラナル國法上ノ利益ヲ得ント希圖スルモノニシテ其契約
ハ即チ公盡上ノ理由ニ基ツク國法ノ禁令ヲ回避スルヲ目的トスル極メテ不法
ノモノナレハ民法第九十條ニ所謂ハ公ノ秩序ニ反スル事項ノ目的トスル法律
行爲ニ該當シ全然無効ニシテ何等ノ效方ア生セナルヲ以テ契約ノ當事者タル

外國人ニ於テ其船舶ノ共有權ヲ取得スルコトヲ得サルヤ明カナリ尤モ此場合
ニ於テ外國當事者間ノ契約中其有權ノ讓渡ニ關スル部分ハ其效ヲ生シ唯ク表面
上日本船舶本シテ共有スルノ契約ノミ無效トナルヘキモ論スバニト得
ヘキカ如シト雖ニ契約ノ主旨カ日本ノ船舶トゾテ之ヲ共有スルニ在リテ共有
ノ物メヨリ國法ヲ禁令ヲ回避スルコトヲ目的トシタルモシタル以上以テ其契約
ハ全部無効ニシテ其契約ヲ分割シ其一部歩有效トシ他ノ一部ヲ無効トガヌコト
トヲ得ヌ其後テ日本船舶ノ所有者タル日本臣民ハ此契約ニ拘ヘラヌ然
然トシテ其船舶リ單獨ノ所有者ニシテ法律上其船舶ヲ支配スルノ完全オル權
能ヲ有スルヲ以テ其船舶ヲ處分スルハ正當ナル權利ノ行使ニシテ何等ノ犯罪
ヲ構成セナルモノ斯ニ下(大審院明治三十六年九月三十日第二刑事部宣傳)六
〇二罪ニ對スル一例ノ爲證ニシテ罪ヲ教訓下ノ區別宣傳ヲ學者ノ見解ニ述
ニ出アテル所ニシテ或曰犯ナレタ國法規の數ニ應シテ犯罪ヲ成クト曰ビシ
チング威ハ一所爲二罪ヲ成スル原則ト就立法上數所爲一罪ト認ムホシトフ防
ケヌト論ス(リスト)我大審院ハ後說ニ據テ昭和三十四年十一月廿六日、

同年十二月十四日二十六年四月十四日之判决及同年十二月八日(雜報二十五頁)本年二月二十七日同五〇頁等ノ判决キ據左之明察大體ヘシ今見大審院十一報告人ハ重罪處ヒ輕罪ヲ曲庇セシカ爲愚昧爲證又爲シタ然犯人對シ數罪ヲ以テ論罪タ候原判決(廣島控訴院ヲ破棄シ)然既々原院之認定シタル所ニ依レバ本治是れ庶人トシテ訊問ヲ受クル(當リ)専七号曲庇スル爲メ一箇の供述ヲナシ而シテ半七ノ被告事條重罪輕罪又二箇不ルカ爲メ一面也刑法第二百十九條第十一號ニ該該號面ナリ第二號ニ當リ乃チ前號之行爲并シテ數箇ノ刑名ヲ觸レ居シテ之果然シ無モ其行爲ノ結果並付キ觀察不確也ハ單チ半七一人ニ對者ノ裁判ヲ觀シム立身危害ヲ生シタル過失シテ始モ一箇數箇ノ創傷ヲ負ヘシメ以テ本人ヲ害シタ所場合ニ異ナルコトナシ凡メ行爲及ヒ其結果又單チナル場合ニ在テハ制裁ニ於キモ亦單ニ一箇ヲ以テス可キモノアル之事理又當然乎外刑法ノ目的亦蓋シニ外ナラヌルナモト(大審院明治三十六年九月)第三行使狀狀取財及開港事件明治三十一)、通商二國大々諸公ト其謀ニ詔ニ詔書(通長國人ニ付モ其議會)其作成を應諾スルモ利害關係方共に便益又美利高級合

同年十二月十四日三十五年四月十四日ノ判決及ヒ同年十二月八日(雜報二五頁)
 本年二月二十七日同五〇頁等ノ判決ニ據リテ明カナルヘシ今又大審院ハ一被
 告人ノ重罪及ヒ輕罪ヲ曲庇センカ爲メニ僞證ヲ爲シタル犯人ニ對シ數罪ヲ以
 テ論シタル原判決(廣島控訴院ヲ破毀シテ曰ク原院ノ認定シタル所ニ依レハ太
 治見カ殺人トシテ訊問ヲ受クルニ當リ半七ヲ曲庇スル爲メ一箇ノ供述ヲナシ
 而シテ半七ノ被告事件ハ重罪輕罪ノ二箇アルカ爲メ一面ハ刑法第二百十八條
 第一號ニ該リ一面ハ第二號ニ當リ乃チ一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ刑名ニ觸レタ
 ルモノナリ然レトモ其行爲ノ結果ニ付キ觀察セキトキハ單ニ半七一人ニ對ス
 ル裁判ヲ誤ラシムヘキ危害ヲ生シタルニ過キシシテ恰モ一聲數箇ノ創傷ヲ負
 ハシメ以テ一人ヲ害シタル場合ニ異ナルコトナシ凡ソ行爲及ヒ其結果ノ單一
 ナル場合ニ在テハ制裁ニ於テモ亦單ニ一箇ヲ以テス可キモノナルハ事理ノ當
 然ニシテ刑法ノ目的亦蓋シ之ニ外ナラサルナリト(大審院明治三十六年(1893)第三
 行使詐欺取財及偽證事件件明治三十一年(1898)告)

法學志林

第四十四號

六月十五日發行

一部定價金十二錢郵稅共一圓二十錢
 郵友半從便外生一部特價
 一圓

一部前金郵稅共十二錢二十錢

解疑

◎本誌ハ本體ヨリ大改良ヲ加ヘ掲載事項ヲ精選シ紙數ヲ増加シタリ

○最近判例判決詳説其九

○自殺下手未遂ノ處罰

○謀殺未遂ノ合算シタル營業税ノ附加税ニ付テ(續)

○株式會社ノ總會決議ノ無効宣言ヲ目的トスノ手續規定

○大日本

○就賣代金不支拂ノ爲メ再就賣ニ付シタル(玉代)

○金ニ就賣關係ノ生シタル場合ニ於ケル差額請求權

○手形上ノ債務ハ連帶債務ナリヤ

○總額所有者ト公債ノ規定

○總額所有者ト荷送人ニ對スル連送狀ノ請求權

○法人ノ理事ハ定款ノ規定ニ違反セル體

○法人ノ決議ニ從フ義務アリケ否キニ付テ

志林

散錄

○監獄ノ尻馬

○寄書

(○法人ノ理事ハ定款ノ規定ニ違反セル體
 (會ノ決議ニ從フ義務アリケ否キニ付テ)

其他判例、雜報、記事數十件

發行所

和佛法律學校

開美房太郎

沈馬山人

特別法講義錄

第三號
六月一日發行

明治三十六年六月十五日印刷

明治三十六年六月十六日發行 (定價金貳拾五錢)

本講義錄八〇月籍法(島田學士)〇人事訴訟手續

法(松岡學士)〇特許法、意匠法、商標法(杉本學

士)〇府縣制、郡制、市制、町村制(松浦學士)〇

供託法(塙田學士)〇非訟事件手續法(横田學士)〇

不動產登記法(鈴木學士)〇競賣法(吾孫子學

士)〇租稅法(若槻學士)〇著作權法(水野博士)

○公設人規則(松岡學士)〇鐵達皮規則(仁井田

博士)(ヲ)備載ス

○毎月一回發行〇月謝金十五錢

六月

和佛法律學校

發行所

司法省

和佛法律學校

(電話番號百七十四號)

明治三十五年十二月九日內務省許可

〔明治三十五年十一月四日第三種郵便局許可。每月月刊一回。每月五日廿九日、二日、五月廿六日廿七日廿八日廿九日、三十日。〕

東京市牛込區牛込北口十番地
東京市牛込區矢來町三番地

印 刷 所

東京市牛込區久保町十一番地

印 刷 所

東京市牛込區久保町十一番地

印 刷 所

東京市牛込區久保町十一番地

印 刷 所

東京市牛込區小宮山信好

印 刷 所

東京市牛込區小宮山信好

印 刷 所

東京市牛込區小宮山信好

印 刷 所

東京市牛込區小宮山信好

印 刷 所